



やまざね

65周年記念号



高三郎山山頂

金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報 vol. 38

目 次

(頁)

【OB 会会長あいさつ】	22 期	黒崎敏男	1
【創立 65 周年記念行事 OB 会総会・懇親会】【写真集】	24 期	仲村正一	2
【OB 会活動便り】			
東海支部活動報告	16 期	川端俊朗	9
近畿支部活動報告	11 期	加藤忠好	10
野沢温泉スキーの会 2023	11 期	青柳健二	18
2023 年小屋作業	20 期	松下和隆	20
【現役より】	66 期	大倉幸章	25
【同期会便り】			
WVOB 会（1 期～4 期）報告	4 期	佐藤秀紀	28
「チバニアン」、ハイキング＋飲み会	9 期	吉田洋次郎	31
2023 年いちごの会（11 期）報告	11 期	井上史三	33
出会って 50 年 そして今年は	15 期	奥名正啓	35
【投稿のページ】			
息子と歩いた 8 年の山旅	4 期	佐藤秀紀	39
六甲・森づくりボランティア・フォレスター松寿	8 期	篠島益夫	43
近年の、外国での記憶から	11 期	長岡正利	46
WV 創部の 3 期の田村様と鈴木様を偲んで	11 期	長岡正利	48
手本ならずとも見本なら・・・(2023 年の山遊び)	15 期	舟田節子	50
オランダ紀行～フェルメール全点踏破の旅～	17 期	小島 敬	54
【会計担当より】	23 期	小久保光将	58
【編集後記】	24 期	仲村正一	60

表紙の言葉＜高三郎山頂＞

小屋作業に併せて 4 年ぶりの高三郎登山。ブッシュを漕ぎ、足元を気にしつつ、大変苦勞しましたが無事にピークにたどり着き、その嬉しさが伝わってきます。藪で見通しも利かない中、初冠雪の白山が樹間から見えました。永く記憶にとどめておいて欲しいと思います。(撮影：10 月上旬、22 期黒崎敏男)

伝統とは

OB 会会長 22 期 黒崎 敏男

9 月 30 日（土）の創立 65 周年記念総会・懇親会は無事開催でき、総会では活発な意見があり、懇親会は盛会となりました。皆様のご協力に重ねて御礼申し上げます。当日はバタバタしてご出席の皆様とは十分な会話もできず、申しわけありませんでした。今回、懇親会には着席ではありませんでしたが、相互に入り乱れて OBOG・現役を問わず懇談しておられるのを拝見し、こちらも嬉しく思いました。こうしたお付き合いができるのもクラブを立ち上げ、それを維持して来られた多くの先輩方のお陰と感じた次第です。

次の創立 70 周年記念総会・懇親会までの 5 年間も不肖わたくしが会長の任を務めさせていただきますので、皆様からのご支援を受けながら次の世代への橋渡しに尽力してまいる所存です。運営については至らぬところが多いとは存じますが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

さて、その 1 週間後には秋の小屋作業に出向き、いつもながらの悪路に悩まされながらもどうにかベルクハイムにたどりついて一定の対応をしたところです。今回は小屋自体のトラブルが露呈し、来春での対応が避けられない印象でした。このような状況でしたが、今回久しぶりに現役の皆さんの強い要望で高三郎登山を実施してみました。栃倉分岐から先は藪がひどく、難儀しましたが何とかピークを踏み、一同歓喜した次第です。

この登山道は現時点でも熟達者であれば何とか登山は可能ですが、終始気を張るため疲れ方が他の山と違うのが毎回印象に残ります。自分が現役のころ、先輩から「高三郎に登れば日本中どここの山でも登れる」と言われた言葉を今回現役の皆さんにお伝えしました。皆さん納得されたと思います。パワーとスタミナ、安全な上り下りの技術、快適に過ごすための装備・食料の計画と準備、いずれも整えないとわずか 1400m の山ですが、跳ね返される厳しさがあります。

伝統というには大げさかもしれませんが、今回世代を超えて共通の体験をさせて頂く中で、絶えず変化する環境の中でも 65 年前に打ち立てられた普遍的なイメージを伝承していくことは可能なことのようにも思え、また、新しい世代もそれを期待しているように感じました。

次回の春の小屋作業は来年 5 月連休明けを予定しています。同様に小屋作業、登山道整備を計画していますので、希望者は遠慮なくご連絡ください。特に、金沢近郊にお住いの OBOG の皆様にはこちらからお誘いしますので、ぜひご参加ください。ボートで行けるよう頑張ってみます。

また、総会でご承認頂きましたとおりですが、冊子形式の「やまざと」は今号をもって最終回とさせていただきます。これまでの伝統に別れを告げるのは寂しさもありますが、形を変えても先輩方の想いは引き継いでいきたいと思っています。

次の 5 年間もこれまで同様、私自身できるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力しますので、お会いできた際には忌憚のないご意見を承りたく存じます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

金沢大学ワンダーフォーゲル部 創立 65 周年記念総会・懇親会

24 期 仲村 正一

9 月 30 日（土）に KKR ホテル金沢で前田達男元顧問・西川潮顧問・都野展子新顧問をお招きし、OB 諸氏が集い開催されました。

（受付の様子）



（左：22 期森さん 中央：23 期戸水さん
右：23 期小久保さん）



（総会の様子）

—— 総会（司会 22 期 小林 正人） ——



（司会小林さん）

冒頭に司会から「創設期の主要メンバーでありました 3 期の鈴木兵一様・田村昭夫様があいづい

でご逝去されました。二人をはじめご逝去された在りし日の先輩の姿を偲び黙とうをささげたいと思います。」の言葉がけをし、全員で黙とう。

会長挨拶（22 期 黒崎敏男）

5 年ぶりに皆さんの元気な姿をみてうれしいと感じます。私も 65 歳になり高齢者の部類に入りました。新型コロナの影響で活動が停滞しましたが、一方で、皆さんからの会費のご協力により財政面ではかなり改善しました。ただし 30 期までで全体の 9 割の会費入金がある構造は同様に、将来的に収入が減少していくことは避けられないと思っています。

この 5 年間、最小限のことしかできなかったと思います反省しているのですが、できるだけことはやってまいりました。ワンゲル部員も今年は 20 名近く入部したようです。創設期のメンバーの精神が受け継がれていっているのだと感じ、現役の支援にも力を注ぎたいと思います。



（黒崎 OB 会会長）

30 年間先輩方のご尽力で運営されてきた OB 会の活動の伝統を受け継ぎ、これからも努力していきたいと思っています。短い時間ですが総会、懇親会ではご協力よろしくお願いします。

【第 1 号議案 活動報告】

（会長）

- 創立 60 周年記念総会・懇親会の開催（2018 年 9 月）参加者 OB119 名、現役 15 名、来賓 2 名
- 60 周年記念 T シャツ作成
- OB 会会報誌「やまざと」vol. 33～37 の発行
毎年 12 月に発行 計 5 回
- 小屋作業の実施（年 1～2 回）

寺津にある車止めゲートは開閉する鍵を土木事務所から許可を得て借用しないとならず、自由に犀川ダムまで車で入れなくなっている。また、

ダムサイトの道の岩石の崩落、のり面の消失や川岸の浸食もあり山小屋まで行くのが難しい状況。

○現役とOB会役員との懇親会の開催

新型コロナの影響で2021年からは未実施。

これから再開していきたい。

○現役活動への支援

毎年1回以上実施（バス借り上げ費など）

○関東支部、近畿支部、東海支部など有志の活動が再開されている。11期青柳さんが25年間にわたり幹事を務めてこられたスキー合宿はスキーの会として有志で継続することとなった。

【第2号議案 会計報告】（23期 小久保光将）



（会計報告中の小久保さん）

過去5年間の会計報告及び次期予算案について説明。（詳細については「会計報告」を参照。）

23期竹内さんから金沢市の補助金の使途についての質問、さらに医王山の登山道の整備に変更してはどうかという提案がありました。

第1号議案、第2号議案一括して拍手をもって可決。

【第3号議案 やまざとの改訂について】（会長）

冊子形式での発行コストは過去10年間で見ると1年あたり印刷費28万円程度・郵送費6万円程度となっている。今後会費の減少が見込まれ、将来的にも長期間にわたりOB会の活動が維持できるようにしたい。そのためA4サイズでページ8枚のリーフレット形式としたい。内容はOB会としての活動記録や各支部の団体活動報告、同期会・現役の活動報告などを掲載する。

個人からの寄稿は従来どおりA4サイズ4枚程度として、OB会のホームページにて掲載する。

現行の冊子形式は65周年記念号vol.38をもって終了する予定。

質疑など

11期長岡さんから、ホームページに掲載されるvol.39以降での、皆様の個人投稿については、原稿とりまとめ編集からPDF化までを、今後5年間は責任を持って協力しますとの意思表示がありました。その際、これまでの挿入写真の枚数制限については緩和してほしいとのお願いもありました。

この意見について、会長から「ありがたいお申し出ですが、これに関しては事務局で責任をもって対応させて頂きたい」旨の回答がありました。

拍手をもって可決。

【第4号議案 会則改定及び役員選出】（会長）

新たに監事を設ける旨などの改定が提案され、監事は会計監査を含めた総合的な監査を行う役割であることの説明がありました。

また、20期久富象二さんがアドバイザーを退任し新たに監事に就任いただき、幹事の37期若山悟さんが退任し、23期の戸水利紀さんに就任いただくことの提案がありました。

拍手をもって可決。

その他意見交換など

11期長岡さんから、初代の倉谷ベルクハイムの計画・対外折衝・設計・施工管理をご担当の、6期合津様から、その将来については、「やまざと」前号の36ページのように（その要旨読み上げ）と、うけたまわってきました。誰よりもベルクハイムを愛された、昨年お亡くなりになった3期田村さんも、同じお考えでした。

金沢大学でホームカミングディが行われます。学長も出席される大変楽しい会です。我々の「北の都会」が懇親会の最後を校歌・寮歌で盛り上げます。皆様もご出席くださればと思います。

15期奥名さんから、会報誌「やまざと」の改訂で、私の趣味として作ってきたOB会ホームページで「やまざと」をPDFの形で続けて掲載することになりました。OB会ホームページについては引き続き担当させて頂きますが長期にわたっているので後任もぜひ検討ください。

他にも会費未払会員への対応を求める意見やその場合の「やまざと」の送付対応に関する意見もあり、会長からも発言し、双方で活発な質疑応

答がなされました。

最後に司会から「活発な意見交換ありがとうございました。総会は、これにて終了させていただきます。皆様のご協力でつづがなく進行させて頂きました。御礼申し上げます」の言葉があり終了。

以上の議事進行を行い、議案についてはすべて役員会提案のとおり議決を頂きました。

——懇親会（司会 23 期 森 恵利子）——

今回は着座スタイルの懇親会となりました。



（懇親会のはじまりの様子）

会長からの挨拶



〈会長〉

乾杯のご発声



（西川潮顧問）

都野展子先生から、西川顧問の海外出張の間、臨時の顧問を務める旨と自己紹介がありました。



（乾杯の様子）

引き続き、現役部長の大倉幸章さんから最近の活動報告がありました。



〈部長挨拶と現役活動の紹介〉

男女 67 名で活動をしている。月に 1 回程度の登山を目標にしている。夏は白山登山を行い泊付き登山も行っている。新型コロナの影響で一時期は登山活動が一切停止されるということがあったものの最近では活発に活動中。現役部員の登山についてスライドを交えて紹介してくれました。



その後は短い時間の中でしたが、皆さん旧交を温め、懇親を深めあった時間を過ごしました。

最後に都野展子先生から閉会のご挨拶を頂いたあと「森のうた」を合唱し、全体の集合写真を撮りお開きとなりました。

皆様のご健康と活発な活動を期待するとともに、5 年後の再会を楽しみにしています。



3 期～7 期の皆様



11 期～12 期の皆様



13 期～15 期の皆様



16 期～19 期の皆様



20 期～22 期の皆様



23 期～25 期の皆様



26期以降の皆様



都野 新顧問

13期柴田さんと66期登坂さん



12期赤地さんと現役生



8期～9期の皆様と15期奥名さん



皆様 楽しいひと時をありがとうございました。
また5年後にお会いしましょう。

東海支部

「遠見山 PW」 報告記

17 期 渡邊 和文

時：2022 年 11 月 10 日(木)

メンバー：L. 竹本(21)、中野(9)、森川(11)、
野村(12)、柴田夫妻(13)、川端(16)、渡邊(17)

遠見山は岐阜県の南部中央に位置する川辺町にある、岩肌が剥き出しになった標高 272m の岩山。山頂から雄大な飛騨川の流れや美濃の山々の眺望が楽しめる。最寄り駅の JR 下麻生駅停車の列車が少ないため、登山口の平和錦酒造前町営駐車場に各自車で集合(9:30)。

快晴無風の好天のもと出発。J R 高山線の線路の下の人がやっと通れる狭いトンネルをくぐるといきなりの急登。標高差 150m をあえぎながら登ると見晴らし岩に到着。眼下を大きく蛇行する飛騨川、街道、J R 高山線を走る列車などの眺めを堪能。尾根を戻って遠見山山頂に至る。ここは下麻生城の跡で秋葉神社や池がある。ここからの眺望もよくしばし休憩。



なだらかな尾根を進みみどりの展望台で休憩し、林道に向かって急坂を下る。しばらくのんびりと林道歩きをすると落差 20m の南天の滝に到着。滝から林道に戻り、地層が現れているところで中野さんの地学解説。「このあたりの岩はチャートで 5cm の厚さに 2 万年ほどかかる。」ということを知り、駐車場に戻る(12:30)。

酒店で買い物をして、近くの蕎麦店(七福庵)に移動して昼食後解散。

その後、食後のデザートをフルーツ大福で知られた養老軒で楽しみ、少し足を延ばして 400 年前の石垣が残る金山城址を散策しました。コロナ禍第 8 波の兆しの中、楽しい一日でした。

「三ヶ根山 PW」 報告記

報告者 16 期 川端 俊朗

時：2023 年 2 月 4 日(土)

メンバー：L. 竹本(21)、中野(9)、森川(11)、
野村(12)、佐野(15)、川端(16)、安井(22)、
竹本さんの奥様

寒い冬が続いた令和 5 年も、ようやく寒さが緩んだ 2 月 4 日、21 期の竹本さんの提案で、愛知県三河の名峰、三ヶ根山への PW に出かけました。

立春に当たるこの日、日差しは暖かいのですが、まさに「春は名のための風の寒さや」の通り、やや寒風が身に染みる中、午前 9 時に J R 東海道線三ヶ根駅に集合しました。

ここから車 2 台に乗り合わせて登山口に向かう予定でした。しかし、駅から 10 分程の登山口は道路工事の真っ最中で、登山者用駐車スペースは工事車両で満車。近くにも駐車場はなく、やむを得ず、三ヶ根山スカイラインを走り頂上部駐車場へ向かいました。(やや膝の痛みを抱えていた筆者には僥倖でしたが)

三ヶ根山の頂上部はただっ広く、広大な観音寺院があり、戦没者の慰霊碑が林立。その中を散策しながら南側に広がる三河湾を眺めてゆっくり山頂に向かいました。大きな電波塔がある山頂で記念撮影。



昼食後、元来た道に戻り駐車場へ。ここからは竹本・川端が車を回して、徒歩下山組が本来の登山道を降りることにした。14 時前に下山完了。

三ヶ根駅近くのスイーツ喫茶茶蔵へ。ここで、あんみつやぜんざいでおしゃべりを楽しみ、中野さんのミカン畑でとれた大量のお土産をいただき、15 時に散会しました。

近畿支部活動報告（R4年秋以降）

高齢にもめげず、よく活動した一年だった。
老兵は、元気な後輩の活躍を期待しています。

磯城（しき）・山邊（やまのべ）Pw

・実施日 2022 10/28(金) 報告 加藤 (11 期)
山の辺の道、北は天理市から南は桜井市、踏破すればテーマになるが、シルバー世代では辛いものがある。そこでひねり出したテーマが、「大和（おおやまと）神社」である。あまり知られていないが、ここの神様は、古代は伊勢に匹敵する神であったようだ。伊勢の方を「神」とするなら、こちらは「祇」である。古くは二神共に宮中にあったが、あまりにも神威が強いため旅に出され、片方はめぐり巡って伊勢に、こちらはほぼ現在地に近い山麓に落ち着いたという。

平安時代になると大きな神社には管理する役所が置かれた。神宮寺がそれで、その長官を別当という。大和神社の場合、長岳寺がそれである。神仏混淆が進むと、神様の居る建物はあるが、もう中心施設では無くなっている。石上神社の神宮寺である内山永久寺は西の日光とまで言われるほどの荘厳な寺であったのに、神様は北隅の布留社という建物が与えられる程度であった。大和神社もそれに似たようなものだったと思われる。

明治になっての大地震、廃藩置県による寺社の領地没収による経済基盤の喪失と、神仏分離令とが寺社を襲った。時代の趨勢を見てか、内山永久寺は廃寺とし、北隅の布留社を中心に石上神社に編成替え、大御輪寺は廃寺となるも同じ場所で大和神社となった。仏像仏具のすさまじい破却もあったという。幸い大師信仰という経済基盤があった長岳寺は廃寺を免れたがかつての勢いは無くなった。一方、大和神社は古に復され、結果的には神社も元神宮寺も共に生き残ることとなった。

10 時。まほろば線。周囲はほぼ農村地帯の長柄駅に金沢からOB会長の黒崎さん、桑名から森川さんを含め参加者 12 名全員が集合、すぐに出発した。駅近くの集落に天理教教祖の生誕地があるというので門前まで行った。ここから大和神社は指呼の距離だった。戦前は官幣大社だったというが、さほどには感じなかった。強いて言えば、「戦艦大和」にはここの神を祀っていたというので、艦の資料館や石碑があったぐらいだ。

参道を東に進み柿畑の坂を登り山の辺の道に合

流した。柿の無人販売所が所々にあった。こんな場所で女性たちが嬉々とするのは何故だろう。萱生環濠集落のはずれの常夜灯籠からは南下、迷路のような道で歯定神社に着いた。大和神社の御旅所とあった。我々は昼食場所とした。一帯は古墳の宝庫、地形図を見ても大小いろいろある。

小さな小川が旧の磯城郡と山邊郡の郡界であるが、ほとんど気づかずにすぎてしまった。



<山の辺の道：萱生集落付近>

長岳寺の門前には昔ながらの勧請縄が張られていた。楼門の前で拝観料 400 円を払った。本堂では、ボランティアによる極楽図の絵解きがあった。が、見事な仏像を見ていたら、それを察してか、仏像についても説明してくれた。増長天と多聞天は平安中期の作で、神仏分離時に大御輪寺から移されたとのこと、そのことが印象に残った。

巨大な崇神天皇陵では、堀の相当に高い堰堤を歩いたが、本当に古代の技術かと疑った。黒塚とその博物館も見学し、長岳寺の五智堂まで来た。

鎌倉時代の建築。塔の側面がなく心柱の一本足と屋根だけの堂で、東西南北に梵字額がある一風変わった建物だった。かつ、昔の寺域がここまでだとすると往時の寺の勢いが想像できた。

途中にある旧柳本村の道路元標も確認し、柳本駅には 16 時頃着いた。山の辺の道のあたりは、のんびりと歩くには良い場所と再確認できた。

六甲・菊水山Pw

・実施日 2022 11/14(月) 報告 加藤 (11 期)

菊水山、こんな素敵な山名は昔からあるはずがないと思っていたら、案の定その通りだった。大楠公：楠正成の討ち死に地が湊川、その後、水戸黄門様が近くに「嗚呼忠臣楠子之墓」を建てたものだからそれが基礎となり、明治時代に湊川神社が別格官幣社第 1 号として創建された。神戸市民が「楠公さん」と親しんでいる神社である。

菊水山の旧名は城ヶ越山だったが、S10年の楠公600年祭の時、山腹に菊水形に松を植えて以来菊水山というようになったらしいのだ。

ここは高村さんのお散歩コースなので、山行きの企画として頼んだところ「簡単すぎないか」という。それで最終的には市街地まで下る計画、途中には明治時代に作られた水道施設、さらに下れば清盛の福原の都もあるので、ちょうど良いということになった。今回も高村さんと智美さんの女性リーダー。秋は女性リーダーが定番になった。



<菊水山登山口にて>

神戸電鉄、始発駅の新開地は地下。5つ目の鈴蘭台駅が標高300m。まるで登山電車だ。それだけに運賃も高い。参加者12名全員がこの鈴蘭台駅10時に集合した。金沢から上馬さんが、福井から間所美智代さんが参加してくれた。しばらくは電車の線路に沿って歩き、登山口で小休止。ここから谷筋の山道に入った。流れとわずかに色づいた木立が気持ち良い。30分ほどで100m登り自動車道と合流、そこから頂上までのんびりと歩き、11時半には菊水山頂に着いた。

女性リーダー二人が巨大な卵巻きを準備。そうして、その日がちょうど誕生日の伊豫さんの指揮下で巨大卵巻きの「大中小」儀式を楽しんだ。

下りは車が来ない自動車道の方を歩いた。早い紅葉が嬉しい。登山口近くまで下り、しばらく線路に並行して歩く。線路と別れ、烏原大橋を渡ると、右岸に有名な妙号岩が現れた。妙号岩というから「南無妙法蓮華經」と書かれていると思うだろうが、「南無阿弥陀佛」と書かれているのだ。何とも「妙」である。辺りはそそり立つように巨大岩ばかりである。道の先に石井ダムがある。しかし、ダム湖にはほとんど水がない。それもそのはず、大雨の時に一時的に水を貯め、下流に負担をかけないためのダムなのだ。ダム周辺も堰堤の上も広く、まるで遊園地のよう。ダムを下る階段も

安全で楽しく歩ける設計になっていた。

ダムの下からはしばらくで六甲縦走路と合流した。こんな山奥なのに、付近には建築美を感じさせる明治時代の水道設備がある。水を流すトンネルの入り口にも当時の県知事の書で「放水門」と揮毫された扁額があった。縦走路と別れて今度は烏原川のダム湖の左岸を歩いた。歩行者専用の散歩道である。真っ赤に紅葉した大木があった。

立ヶ畑ダム。神戸市の水道水源として日本で4番目に古い重力式ダムである。アーチ式ダムを思わせるようにややカーブしているなど実に優美な姿をしている。4番目のためか神戸市民でも知らない人が多い。港でも神戸ウォーターが有名なものは、ひとえにこのダムのお陰であった。

右岸に渡り、山に沿って歩くと稜線が尽きたところで、右手に突如神戸の市街地が現れた。断層が尾根と谷を東に引っ張るという奇妙な地形が、驚きの景観を生んだのだ。突然の市街地。急な階段を下ればバス停はすぐだった。ここで解散はしたものの、「清盛も入ったかも・・・知らんけど」、何人かは古くからある湊山温泉に向かった。

京都・大悲閣Pw

・実施日 2022 12/5(月) 報告 加藤 (11期)

嵐山の近く、地形図にも記載されている気になる場所が「大悲閣」である。調べると、どうやら角倉了以と深い関係のある寺であることがわかった。簡潔にいうと、角倉了以が開削工事(保津峡と呼ばれる区間を舟で通行できるよう)で犠牲になった人々を弔うために嵯峨野からここに移転した寺であるという。晩年に了以も過ごしたとのこと、なんとなく文化的香りがする場所である。

下見の時は見事な紅葉。観音堂(大悲閣)から紅葉を通して眺める京都が素晴らしかった。しかも、まだ観光地化されていない隠れ家的な場所であるが、外国の京都通の観光客には良く知られているようだ。崖地の上にあるのでほとんどの建物が傷み、再建に努力しているご住職の懸命な姿は他の寺と違って感じました。

実施当日、10時ごろには阪急嵐山駅に集合。渡月橋あたりで合流すると約束していた高水間さんからの携帯連絡があったので、駅を出た。やはり人が多い。中之島で全員揃ったので、小渡月橋を渡り桂川の右岸に出た。少し上流に向かうと人が

激減する。しかし紅葉は見事。嵐山側が怖いくらい急峻な崖となっている。大堰川と呼ばれるこの辺りは、川下りの舟のためにやや水位が高くなる工夫がされているという。なおも行くと、川幅が急に狭くなるとともに川底の岩が見えてきた。なるほど、川の開削というのはこの川底の固い岩を砕くことなのだ。往時としては非常に困難な工事であったろうと推察された。小渡月橋から約30分後には大悲閣の階段下に着いていた。



＜大悲閣の住職に入ってもらったの記念撮影＞

ここからは一本道なので一旦解散。大悲閣に早く着いた人から展望を楽しむこととした。

標高差は約50mばかりなのにそれ以上と感じるのは、予想より急なためか。幸い途中でベンチがあるので休憩しながら登れた。約15分で全員が大悲閣に揃った。梵鐘の音が対岸に届くくらいに心地よく響いた。京都でも、こんな風に鐘を撞かせてくれる寺はごく少ないだろう。拝観料を払えば梵鐘を3回撞けるのだが、それは人の少ないときの話。我々は一回ずつとした。銀杏の黄葉が見事だった。ご住職と幾許か話し、最後に記念写真を撮り、また来ることを期し寺を辞した。松尾社へは、ほぼ西一ノ井川に沿って歩いた。山際の月読神社、鈴虫寺を過ぎ、地藏院を拝観した。ここは一休さんが過ごした寺であり別名竹の寺としても有名である。紅葉の最盛期は過ぎていたが、靴を脱ぎ方丈で寛ぐのは気持ちが良い。有難いのは、ほぼ我々のパーティだけだったこと。

次いで、近くの浄住寺へ。つい先日まで特別拝観料を徴収していたようだが、無料拝観に変わっていた。それでも、残り紅葉を存分に楽しむことができた。解散地の上桂駅まで約20分だった。

高槻茨木古墳巡りPw

・実施日 2023 1/20(金) 報告 三宅 (15期)

大阪北摂の高槻茨木には意外に知られてないようだがたくさんの古墳がある。今回のPwでは「今城塚古墳」と「阿武山古墳」に加え「京都大学地震観測所」などの施設を見学した。これらの古墳、観測所はいずれも名探偵浅見光彦が活躍するミステリー小説「狐道」「金色の眠り」の舞台となっており興味深い。(作家「内田康夫」の絶筆となった小説)

JR摂津富田駅に9時30分集合。桑名から森川さん、名古屋から野村さん、金沢から上馬さんが参加で総勢16名。大阪医科薬科大学の学生で満員のバスに乗り今城塚古墳へ出発。10時過ぎに今城塚古墳前到着。広さ9ヘクタールの広大な敷地内にある墳丘や内堀、埴輪祭祀場を見ながら歩き「今城塚古代歴史館」に到着。施設内のジオラマや展示物などを見学した。

「今城塚古墳」は6世紀前半に築かれた淀川流域では最大級の前方後円墳で学術的には531年に没した継体天皇の真の陵墓と言われており、平成9年から行われた発掘調査により日本最大級の埴輪祭祀場や墳丘内石積など貴重な発見が相次いだ。なお、宮内庁では茨木市にある「太田茶臼山古墳」を継体天皇陵としている。11時15分今城塚古墳を出てハニワ工場公園に向かう。途中「闘鶏野(つげの)神社」に寄る。神社への参道が名神高速道路の上を跨いでいる全国でも珍しい神社である。12時「ハニワ工場公園」到着。ここで昼食。ハニワ工場は西暦450年頃から100年にもわたって操業していたそうだ。残存する当時の窯を見学後、12時45分慌ただしく出発。ここまでの行程で少し遅れていたため13時30分からの「京都大学地震観測所」の施設見学に間に合わなくなるためだ。



＜今城塚古墳のハニワと＞

「時間大丈夫ですか」と施設の責任者の方からも心配の電話が入り焦った。地震観測所は阿武山(281m)の山腹にあり少々きつい登り40分の車道をあえぎながら登った。8人のスタッフに迎え

られ何とか予定通り 13 時 30 分に到着。施設見学は通常 2 時間だが特別に 1 時間に短縮してもらったので慌ただしかった。始めに「地震の仕組みや地震学の歩み」の講義があり、その後 2 班に分かれ「歴代地震計の見学」「屋上からの展望」などを楽しんだ。屋上からの展望は素晴らしく眼下には大阪平野が広がり天王山から生駒山、金剛・葛城山などを一望出来る。観測所の少し上に「阿武山古墳」がある。「阿武山古墳」は昭和 5 年に建設された京都大学地震観測所の建設工事中に偶然発見されたもので、棺の中にはミイラ化した 60 歳位の男性の遺骨がほぼ完全に残っており身に纏っていた高貴な衣装、副葬品などから「藤原鎌足」ではないかと言われている。阿武山古墳からは緩やかな登りを 20 分歩き「阿武山頂上」に 15 時 15 分到着。計画通りでほっとする。

山頂では、羊羹の差し入れを近畿 0B 会恒例の「大中小のじゃんけん」をしていただく。毎度の事ながら子供に戻ったようにはしゃいで楽しいひと時をすごした。山頂からは下山 30 分で最終目的地の阿武山口バス停に到着。皆さん飛ぶように降りたため予定より 20 分も早く着いた。予定通りのバスに乗車して 30 分、16 時 55 分 JR 摂津富田駅に到着。解散した。

最後に、Pw の前日 1 月 19 日に 15 期金井さんの訃報が突然入り生前の彼を偲びながらの Pw になりました。阿武山頂上では参加者全員で「いつかある日」を合唱したり、棺に入れてもらう色紙に思いを書いたりして金井さんを偲びました。解散後、多数の方がお通夜へ駆けつけるなどバタバタしましたが思い出深い Pw になりました。

姫路城の堀と城門巡り Pw

・実施日 2023 2/20(月) 報告 加藤 (11 期)

姫路駅に降り立つと、道路の奥にすくっと立つ天守閣が見える。しかも、小天守が脇侍のようにならんでいる。まさしく「美」そのものである。それ故、つい天守閣に足が向いてしまい、安くもない入場料を払い、「い」「ろ」「は」など忍者のような名称の門をくぐり、天守閣の最上階で「ああ絶景かな～」と満足気分に入る。それを否定しないが、姫路城はもっと多面的である。

西国大名に睨みを利かす目的で整備したこともあり、この城主は基本的に譜代大名である。領

地もそこそこ与えられたが、釣り合わないくらいに城が立派で、修理に追われたという。姫路が裕福な藩でなかったのは、そこに理由がある。

姫路城の堀は螺旋形にできているが、なんらかの工夫で内堀、中堀、外堀が存在する。それぞれの堀の内側を内曲輪、中曲輪、外曲輪といい、内曲輪は行政府、中曲輪は上級武士や一部の社寺、その他は外曲輪にあった。明治維新、姫路城の場合は内曲輪、中曲輪が公の域内とみなされ、上級武士は立ち退き対象となり、そこに軍隊が入ってきた。中曲輪が広大であったためと、名城であったために、本丸、二ノ丸、西ノ丸の多くの櫓が破却されずに残った。また、軍の用地であったがために、石垣の多くが残った。堀もしかりである。

今回は、天守閣をいろんな方向から見るのと、堀の構造をグルグル探り歩く Pw とした。



<姫路城の展望地、男山山頂にて>

集合は JR 京口駅、西国街道の外曲輪の玄関である外京口門がすぐ近くにある。定刻前に 11 名全員がそろった。まずは外堀川へ。明治時代に生野からの銀輸送道路建設のため半巾が埋め立てられたがよく残っている。川沿いに歩き、竹ノ内門跡に。川はここから西へ直角に曲がり、さらに西北に折れている。我々は、ここで外堀川と別れ、中堀に向かった。堀の内側は中曲輪だ。煉瓦建ては市立美術館、以前は市役所、戦前は陸軍の被服倉庫であった。ここではやや細身の天守閣が煉瓦建ての建物の上からのぞいている。こんな風景は珍しいだろう。国立病院に沿って 180 度旋回し、再び中堀へ向かう。堀の中曲輪側に久長門跡の石垣がしっかりと残っている。外曲輪に出て中堀に沿って歩いた。南東の角には内京口門の石垣がほぼ当時に近い形で残っていた。

ここからは、泉鏡花の天守閣物語の題材となった長壁という崇りの神様に挨拶しに総社に向かった。実は、長壁とは忍壁とも表現される刑部親王のこと。崇りとは関係のない人生だったそう。話題の崇りの神になりうべきは、非業の死を遂げ

た他戸親王であり、他戸（おさべ）と刑部（おさかべ）の言葉が似ていることから、混同がどこかで起き、間違っただけで伝えられたらしい。

総社からイーグル姫路へ。エレベーターで屋上に出て城を眺めつつ昼食とした。地元の人のみぞ知る、かつ姫路城正面展望第一の場所である。

食後、内堀の正面門である桜門から内曲輪の三ノ丸に入った。正面からの姫路城も良い。が、秀吉築城時に大手門だった東側に回る。石垣を見上げると、堀と天守は見事だ。次いで螺旋の堀の出発点となる泉へ。一見何でもない泉だが、仕掛けを聞けば笑える。泉の横の八頭門跡の石垣から、北勢隠門、清水門と姫路城の裏側の城外に出た。

男山はもう一つの展望台だ。ここの特徴は3つの小天守も見ることが出来る絶景の場所なのだ。

再度、裏から中曲輪まで戻り、内堀に沿って南勢隠門を抜け好古園前へ。お疲れの金岩さんがバスに乗るのをここで見送った。黒崎さんは大丈夫という。一之橋門を出ると、千姫の小径という細い道で中堀と外堀が接しているの、この道を南下、車門から再び中曲輪に入った。埋門跡では石垣をよじ登った。石垣の上は櫓があっただけに意外と広い。ここからは姫路城がよく見える。ここからは中堀が埋め立てられ、今や国道になっている。鷗（くまたか）門は昔の桁形がそのまま残っている。中ノ門を過ぎれば、ほぼ中堀を一周したことになる。姫路で一番古い喫茶店「大陸」に寄り、コーヒで今日の完歩を祝った。

石清水八幡宮と背割り桜Pw

・実施日 2023 3/27(月) 報告 三宅 (15 期)
京都府南部に位置する八幡市は「石清水八幡宮」（平成 28 年に国宝指定）を中心として「東高野街道」に沿って街が開けている。所々に昔の風情を残す街道沿いには神社仏閣など多くの史跡がある。また「石清水八幡宮」のある「男山」の麓を流れる「宇治川」と「木津川」、「桂川」の三川はこの地域で合流し（三川合流と言われる）「淀川」となって大阪湾に流れ込む。「背割堤」は宇治川と木津川を隔てる堤防で春には 1.4 キロ続く桜のトンネルとなる。今回の Pw は石清水八幡宮を中心に八幡市の史跡巡りと背割桜のお花見とした。

京阪石清水八幡宮駅 10 時に参加者 11 名全員集合。京都から高野山に向かう東高野街道を少し歩

き一番目の目的地「飛行神社」に徒歩 5 分で到着。珍しい名前の「飛行神社」は明治 24 年日本で初めて飛行実験に成功した二宮忠八（明治～昭和の軍人）が建立した神社である。大阪湾から引き揚げられ展示されている「零戦」のプロペラなどを見学した。次に二番目の目的地「単伝庵（らくがき寺）」に向かう。臨済宗のお寺でお堂の壁に願い事を落書き出来るのだが殆どスペースが無いくらい落書きで一杯だった。メンバー誰も何故か落書きをしなかった。



＜らくがき寺にて＞

次に三番目の目的地「泰勝寺」へ。寛永の三筆と称された社僧「松花堂昭乗」ゆかりの寺で大正 7 年に建立された。昭乗のお墓があり、石庭（南天の庭）が美しいが通常は非公開のため見学出来ない。しかし今回は金沢大学ワンダーフォーゲル部の OB 会である事をお伝えし特別に見学させていただいた。住職不在のため奥様が庭園と宝物館を丁寧に案内してくださった。本堂と茶室は見られなかったが庭園は趣があって良かった。

ちなみに皆さんよくご存知の「松花堂弁当」は松花堂昭乗が絵道具や煙草盆として使っていた十字型の器を参考にして、昭和の初め料亭「吉兆」が作った弁当だそう。お寺の門前で記念写真を撮って、いよいよ石清水八幡宮のある男山へ。

男山山頂（142m）までは参道を 30 分登る。途中、松花堂昭乗の宿坊茶室跡などを見学し 12 時山頂到着。山頂展望台からは京都の市街、愛宕山から比叡山など周りの山々が一望出来る。

眼下には三川合流の桂川、宇治川、木津川、背割堤も近く見える。昼食後、石清水八幡宮の本殿（国宝）を参拝した。境内の桜は丁度満開で見事であった。近くにある「エジソン記念碑」で記念撮影。白熱電球の実用化に向けフィラメントの材料を探して見つけたのが八幡の竹だったそうで、

毎年エジソン生誕祭が行われている。表参道の石段をゆっくり 20 分下り「安居橋（たいこ橋）」へ。大きく半円を描いた形の橋は大きな蔵屋敷を背景になかなか風情がある。少し移動し「頓宮殿」を通り抜け表参道入口に立つ「一の鳥居」の前で記念撮影。鳥居の前に八幡名物「走井餅」のお店があり買い求めるメンバーがいた。

最終目的地の「背割堤」までは徒歩 10 分程度だ。木津川に架かる御幸橋（ごこうばし）355m を渡り 15 時 30 分到着。桜は満開、天気快晴で凄い人出である。桜並木の入り口で運営協力金 100 円を払って入場し桜のトンネルを皆なでぞろぞろ 30 分程歩く。河川敷にはたくさんの屋台が出ていて大勢の人で賑わっていた。背割の桜は 1978 年に松からソメイヨシノへ植替え始め、1988 年 4 月に一般開放されたそうで歴史は新しい。河川敷に降りて輪になって桜並木を見ながらお茶とお酒少々を楽しんだ。コロナ後の久しぶりの宴で楽しかった。

17 時に石清水八幡宮駅に戻って解散した。

再々京都・長尾山 Pw

・実施日 2023 4/25(火) 雨天中止

再々々京都・長尾山 Pw

・実施日 2023 5/10(火) 報告 加藤 (11 期)

京都には有名なトレールがいくつかある。いわゆる観光登山のルートである。有名ゆえ、道もしっかりしているが、人が多いのが難点である。雑踏の山など行きたくはない。地元の人しか行かないような山をと探すと意外な発見もある。物語である。高瀬川と琵琶湖疏水、京都らしい景観を放つ人気スポット。そしてそれらを開削した角倉了以と第 3 代京都府知事の北垣国道の二人が、時代を越え、この山でつながるという物語である。

嵯峨野を歩いていて驚くのは、北に連なる山々は、地形図では無名の山ばかりなのである。実は毎冬、約 2 週間京都ステイする機会を 15 期の金井さん（今年の 1 月に逝去、ご冥福を祈ります）の好意で楽しんだ。ある年は毎日豆腐を食い、別の年は衣笠井にこだわり食べた。なるべく京都の庶民の生活を体験しようと、あちこちの銭湯にも入った。観光地でないところをなるべく選んで歩いた。しかし、北嵯峨野の山までは手を出さずにい

たのだ。パソコンで調査すると低山だけに地元の人はまともな道があるかどうか不明なところを歩いている。それでもなんとか下見せずに長尾山 Pw を計画した。そして雨で 3 度流れた。

調査で分かったこと、山の向こうの谷に堰堤を作ること水面の高い菖蒲谷池を作り、なるべく稜線越えの隧道の長さを短くして反対側の嵯峨野に水を送っていたことを。それ造ったのが角倉了以の甥（和算問題で有名な塵劫記の著者でもある）である。峠を越える隧道で反対側に水を送り土地を豊かにする。時代を超えたつながりというのはこの発想である。琵琶湖に対応するのが、規模が小さいながらも菖蒲谷池なのである。最初は稜線歩きだったが、菖蒲谷池と隧道との関係を見たさに道探しのため下見もした。さあ本番だ。



<長尾山 295.9m 山頂にて>

9:15 には京都駅 JR バス乗り場に全員が集合、バスに全員着座。乗ること約 40 分、230 円は安い。まず、平岡八幡宮に参拝。参拝よりもトイレが大事な人も居たような。ここから長刀峠に向かう。途中、某有名人の邸と寺があった。

長刀峠からはわずかな階段の登りで、すぐに稜線に出た。ミツバツツジは終わりモチツツジが咲いていた。登り少しとやや平坦道。これの繰り返しが何度あったろうか。時折り見える嵯峨野の俯瞰。広沢池、大沢池、大覚寺と田畑との調和が良い。昔ながらの景観が良く保たれているのは、景観保全地区で都市開発を不可としているからだ。

天気良さが、暑さに慣れていない体から汗を要求してくる。たいした距離ではないのに老兵の行軍。さぞかし滑稽な風景だろう。それでもほぼ正午に今日の最高点である長尾山 295.9m に着いた。ここまでくれば、あとはほぼ下り。一気に気分が和む。それぞれのザックから菓子だとか果物などが出てくる。低山だけど、南方面にはもう山がない。すこぶる展望が良い。一時間あまり食べて、おしゃべりをして、最後に記念写真を撮った。このまま稜線道を歩くか、それとも池に立ち

寄るかを諮ったら、菖蒲谷池の構造を見たいという。さすがに老いたりとは雖もKUWVは知的集団であることを証明した瞬間であった。京見峠からさらに5分で菖蒲谷池に着いた。隧道への水門が池の最上部にあるのがここの特徴。江戸時代初期によくここまで考えたものと敬服した。下り5分でも、稜線への登りは10分かかった。

きれいに整備された嵯峨天皇陵前の石畳では伊豫喫茶店が開業。ああコーヒがうまい。陵からの下り道は北嵯峨から東山までの絶景だった。

北嵯峨公民館前の庭には、北垣国道書なる菖蒲谷池顕彰の碑があった。碑文には確かに角倉了以の文字があった。大覚寺の裏なのに、すぐ近くの飲料自動販売機がほぼ100円だったことに感動した人もいた。これも観光客用ではなく、地元の子供たち対象の販売機らしかった。

君影ロックガーデンと朝ドラPw

・実施日 2023 6/12(月) 雨天中止

武田・京都薬用植物園見学Pw

・実施日 2023 6/26(月) 報告 加藤 (11 期)

2020年2月の瓜生山Pwだった。山麓の曼殊院のトイレを借りる目的もあって参拝を計画、その時、現地で武田薬品京都薬用植物園の存在を知ったのだ。この植物園について調査すると、一般開放どころか、年に数回だけしか公開しない。なかなか行けない施設だ。京都にはこのような通人を対象とした施設がよくある。

避難的な企画として使おうかと思い4月下旬に16名参加で申し込んだが、それではいかにも厚かましい。そこで希望を再調査し、その結果、希望者は8名。早速、氏名付きで訂正した。参加が確定するまでの約2週間は長く、50名の枠に何とか入れたのがわかった時は笑みがこぼれた。

当日は怪しげな空、集合地に近い叡電修学院駅からの道がややこしい。この辺りは自然発生的にできた住宅地、なので畑地の道がそのまま道になったところも多い。狭くて袋小路も多い。読図力により最適なコースの鷲森神社の社務所から裏道で素直に植物園に着くことが出来た。地図なしで勘だけで何とか行けると思った伊豫夫妻は四苦八苦して、時間ギリギリになっての到着だった。ここは自家用車ご法度の植物園、小雨なのに次々と

タクシーで来る人々には驚いた。それくらいに人気が見学会なのだ。参加の常連もいるらしい。

見学会は、10数名のグループごとに専門職員が付き添って指定順路に従って回る。指示された植物については、自由にちぎり、噛み、匂いを嗅いだりできるのだ。五感を使って楽しめる植物園というのも珍しい。我々のグループの最初が胃薬の原料となるヒキオコシなどであった。最初だからと張り切って味わったため、口中が苦さだらけに。また、室内では、生薬を食べる体験もあった。「朝鮮ニンジンがおいしい」との感想を述べると、それは体が必要としているのかも知れないといわれ、ギョッとした次第。いっぱい体験しすぎたので多くは忘れたが、赤紫蘇にも二種類あることが印象に残っている。生でも赤紫蘇の香り豊かな紫蘇と、どちらかというやや青紫蘇の香りがするものがあるということ。

小雨でも、実に楽しい実技見学会であった。



＜元神戸にあった洋館建てを背景に＞

最後に、お目当ての建物に寄った。係員の説明がなかったが、その前で記念写真を撮った。この建物は住友銀行本店の支配人であった田辺貞吉の邸宅として建てられた。その後、住友本家に。阪神淡路大震災で大きく損壊したため、一旦取り壊す計画になった。が、武田薬品が薬草園の迎賓館とする利用目的で購入。ここに修復移築した。設計者は中之島図書館を設計した野口孫市。

広い植物園、かつては曼殊院の敷地だったという。それゆえ曼殊院に近い。折しも曼殊院では、明治時代に失った宸殿の再建がなり、記念に国宝の「黄不動」も拝観可という。瓜生山Pw当時にはここにはなかった貴重な二つ、しかも「宸殿」の中で本物の「黄不動」を見ることができた。

帰りは一乗寺駅まで驟雨に見舞われたが、四条河原町の辻子で食べたラーメンがうまかった。

近畿支部の活動まとめ (2022 年秋以降) 名前に添字のある方は女性、○()は期です。

2022 10/28(金)	磯城・山邊Pw (企画 加藤) 参加者 12 名
金岩⑤ 伊豫⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 赤地⑫ 鈴木⑮ 高村c⑮ 三宅⑮ 井上⑯ 黒崎(22) 長柄駅～大和神社～山の辺の道～歯定神社(昼食)～長岳寺～崇神天皇陵～黒塚古墳～五智堂～柳本駅	
2022 11/14(月)	六甲・菊水山Pw (企画 加藤s、高村c) 参加者 12 名
金岩⑤ 伊豫⑧ 篠島⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 上馬⑮ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮ 神鉄鈴蘭台駅～菊水山登山口～菊水山～登山口～妙号岩の下～石井ダム～立ヶ畑ダム～石井橋バス停	
2022 12/5(月)	京都・大悲閣Pw (企画 伊豫、加藤) 参加者 12 名
伊豫⑧ 高水間t⑧ 伊豫a⑩ 畔山⑪ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮ 阪急嵐山駅～中の島～大悲閣～渡月小橋～法輪寺～松尾大社～地藏院～浄住寺～阪急上桂駅	
2023 1/20(金)	高槻茨木古墳巡りPw (企画 三宅) 参加者 16 名
金岩⑤、伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、 野村⑫、赤地k⑭、上馬⑮、宇野⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 摂津富田駅＝氷室～今城塚歴史館～ハニワ工場公園～京大地震観測所～阿武山～阿武山口＝出発点	
2023 2/20(月)	姫路城の堀と城門巡りPw (企画 加藤) 参加者 14 名
金岩⑤、伊豫⑧、黒崎⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、野村⑫、 赤地k⑭、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯ 京口駅～外堀・中堀巡り～姫路総社～イーグル姫路～三の丸～男山～内堀巡り～車門跡～姫路駅	
2023 3/27(月)	石清水八幡宮と背割り桜Pw (企画 三宅) 参加者 11 名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京阪石清水八幡宮駅～単伝庵～泰勝寺～男山展望台～八幡宮本殿～安居橋～背割り桜～八幡宮駅	
2023 4/25(火)	再々京都・長尾山Pw (企画 加藤) 雨天中止
2023 5/10(火)	再々々京都・長尾山Pw (企画 加藤) 参加者 8 名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京都駅＝梅ヶ畑清水町～平岡八幡宮～長刀峠～長尾山～京見峠～菖蒲谷池～嵯峨天皇陵～大覚寺	
2023 6/12(月)	君影ロックガーデンと朝ドラPw (企画 高村c、加藤s) 雨天中止
2023 6/26(月)	武田・京都薬用植物園見学Pw (特別企画 加藤) 参加者 6 名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、高村c⑮ 叡電修学院駅～鷲森神社～京都薬用植物園(見学)～曼殊院(国宝黄不動参観)～叡電一乗寺駅	



＜京都浄住寺で集う近畿支部参加者 2022 年晩秋＞

11 期 青柳 健二

・実施日 2023 年 2 月 25 日(土)～27 日(月)

・参加者 (8 期) 野村・(11 期) 青柳
(15 期) 上馬・坂尻・(21 期) 竹本
(26 期) 畠山 計 6 名

今回は 25 回まで続いたスキー合宿を、スキーの会として再出発し、昨年と同様に 2 月末近くに実施しました。

参加者は、久しぶりに金沢から野村さん・上馬さん・坂尻さんが参加、地元の畠山さんに加えて愛知から竹本さんが初めて参加されました。

スキーの会として衣替えした年に、かように多彩なメンバーが集まった事は嬉しいことでした。

・2 月 25 日(土) 曇り時々雪

何時ものように朝 7 時半過ぎに自宅を出て、大宮駅 9 時 9 分発の上信越新幹線はくたか 555 号に乗り 10 時 32 分飯山駅着。ここで待ち合わせをした自家用車できた竹本さんと合流。11 時 10 分には宿“ふるさと”に入る。

今日は宿泊者が多いようで、2 階の大広間で着替えをして竹本さんと 2 人で 12 時 6 分にはスキーに出発。リフト券は、ヤル気満々の竹本さんに合わせてシニア 3 日券 (13,000 円也) とした。

新長坂ゴンドラで一気にやまびこ駅へ。レストハウスやまびこへ入って昼食とする。先行した 4 名が席を確保してくれていた。本日のランチはビーフカレー (1200 円也)

13 時 40 分過ぎにスキー開始。毛無山山頂まで登り、畠山さんのカメラで写真を撮る。やまびこ A コースを滑る。雪が強くなり、長坂ゴンドラを下り線に乗り長坂ゲレンデに出る。長坂ゲレンデで滑ることとする。斜度がなく長い長坂ゲレンデは調整ゲレンデとしては最高だ。但し、想定以上にバーンが固く、2 回転んだ。

4 時少し前に宿に戻った。今年の初滑りであり、疲れた。宿の内湯に入り疲れをとる。

19 時から夕食。

食堂には日本人の客が多く、その為か料理は今一步であった。



早々に、2 階の大広間に戻り、パソコンで写真会&懇談会を行う。

私が 61 歳の時に登ったヒマラヤ・ゴークヒーク登頂の写真を披露。

上馬さんは、白山の百四丈の滝を冬の滝つぼに降りた様子を披露。

畠山さんは、上越の山々を版面にした年賀状をお披露目。その素晴らしい出来栄で感嘆する。

夜 10 時過ぎに床に就く。

・2 月 26 日(日) 終日雪

6 時起床、7 時半に朝食をとる。

今日は天気が悪いので、ユックリとコーヒーを飲み、8 時 45 分過ぎにスキーに出る。

長坂ゴンドラは長い列であったが、ゴンドラを降りると上部はガスが濃く上のリフトが見渡せない。老人グループの私と野村さんはパラダイスゲレンデに行くことにした。若手は上に上がっていった。野村さんとパラダイスゲレンデを 2 回滑って、スキーサイドの三角屋根のロッジ「はくぎん」で休むことにする。“ケーキ・紅茶セット”で疲れを癒す。雪はシッカリ降り続けているので、このロッジで昼食を取ることに決め、畠山さんにメールして了解を得る。6 人分の座席を確保して、ジックリ体を休ませることにする。

11 時半に全員がロッジに集合。私は“塩バターラーメン (950 円也)”を食す。美味かった。

12 時半に午後のスキーに出る。畠山さんたち若手組はやまびこゲレンデへ。私と竹本さんはユートピアコースに出て日影ゲレンデから長坂ゲレンデへ出る。昨日同様に、長坂フォアのリフトに乗って調整する。ショートターン、ロングターンのコツを掴んでホットする。

15時過ぎに、連絡コースを滑り宿に着く。
定番の甘酒を飲んで、今日も無事に滑り終えた
ことでホットする。

久し振りに中尾の湯に行く。ゆっくり入って疲
れを癒す。熱い方の湯舟に入るもそんなに熱く
なく、気持ち良い汗をかいて満足する。

宿に戻ると畠山さんが帰るところで、見送る。

19時から夕食。今日は、人数が少なく、料理
は上等であった。信州サーモンのお刺身、茶碗蒸
し、小魚の唐揚げなど、美味であった。

9時30分ころ、床につくとストンと寝てしま
った。

・2月27日(月) 本日は終日快晴なり

朝6時起床、7時30分に朝食。何時ものリン
ゴとコーヒーが美味い。

8時には会計を済ませ、8時45分にスキーに出
かける。

今日は月曜日なので、長坂ゴンドラの列は短
い。9時40分には毛無山山頂に着いていた。



樹々に霧氷が張り付いて、その輝きが美しい。
早速やまびこAコースを滑る。なだらかなコー
スをスピード上げて滑り、急斜面の上で止まり、
急斜面をリフトの前まで滑り降りる。このスピー
ド感が心地よいのだ。3回滑って喫茶ダンテへ。

缶コーヒーを飲んで一休みする。この休憩スポ
ットがあるのが助かる。75歳の老スキーヤーに
は丁度良いのである。25年間、野沢で滑り続け
て怪我も無く滑り終えたことに感謝したい。



やまびこDコースを2回滑ってレストハウス
やまびこで昼食を取る。(山菜うどん 950円也)

12時40分、野村さん達3名は、金沢へ帰る。

竹本さんと二人でやまびこAコースを滑る。
妙高・火打が輝いて美しい。また、苗場山などの
山々も輝いている。この絶景が野沢の宝なのだ。

3回滑って、レストハウスで休み、スカイライ
ンコースを滑り降りる。今回初めてのスカイライ
ンである。このコースが野沢のベストコースであ
る。晴れた日の午後になると斜面が固くなって滑
りにくい。

転倒ないようにゆっくりと滑る。こんなに長
かったのか？こんなに急なところがあったのか？

細い斜面を転ばないように滑って、橋を滑り降
りてウサギコースの上に出る。バンザイ!!

柄沢ゲレンデを滑ってスキーを終える。

さすがに疲れた、無事なり。2時半に宿に着
く。スカイラインコースを滑り降りた直ぐの処に
宿があるのが、毎年泊まっている“ふるさと”の
強みである。

帰り支度を終えて、午後3時には帰途につく。

お土産処で“はと車 (1,300円也)”を買っ
て記念とする。

竹本さんに飯山駅まで車で送ってもらい、新幹
線はくたか号で帰ることが出来たのでした。

さて、スキーの会は来シーズンは“八方尾根”
を予定しています。その次の年は“志賀高原”と
しましょう。さて、何時までゲレンデスキーが続
けられるか楽しみです。

5 月 13 日（土）に実施した概要を紹介します。

【参加者】

OB 15 期 上馬 坂尻
20 期 黒崎
現役 66 期 大倉、林
67 期 濱本、中西

6 : 4 0 イオン集合、現役 2 名が不参加で OB 3 名、現役 4 名

7 : 1 0 ゲート手前の駐車用スペースで下車、以降徒歩で移動。途中は数か所で工事中で大型車両が多く通行中。

8 : 3 0 ダム着、トイレが使用不可で事務所内のトイレを使用させてもらう。

8 : 5 0 ダム発、数台の車があり、ゲート通行許可を受けた個人が入っている。途中は 2 番目の沢の橋が決壊して導水管が露呈しているものの通過には問題なし。高桑碑周辺のがけ崩れも大きな変化なく、通常どおり掃除して献花する。吊り橋手前は数か所で崩壊があるもののロープを補助に慎重に歩けば大きな問題はない。ここまで雨はなく足元は草も少ないので歩行しやすい。



(沢の通過)

1 0 : 3 0 へつりの箇所は流れが変化し、水量計付近は流れがなくなって、水量さえ少なければかなり上流に向けて歩行できる。最後は丸太をつたって岩をよじ登って通過する。小屋下には小屋掛けして数名の人が滞在中。少し話をすると、皆さん金大ワンゲルに期待している旨をされ、また一緒に楽しみましようとのこと。



(へつり)

1 0 : 5 0 小屋着、水場を確認するとホースの先端のかごがなくなり、ホース本体は下流に流されていたので引き上げて再設置。亀裂もあり水量は多くないが導水は確認できた。草刈り後、昼食。

1 3 : 2 0 小屋発。雨がひどくなったため増水を心配し、尾根のう回路を通過。帰りも慎重に通過し、1 5 : 0 0 ダム着頃には少雨となる。

1 6 : 2 0 ゲート近くの駐車場に戻る。イオンに戻って解散。

1 年ぶりでしたが、小屋内は特に変化なく、屋根の腐食はやや進み、奥の床板の腐食が気になりましたが大きな問題はなさそう。

参加者は皆さん健脚ぞろいだったので長時間の歩行にもまったく心配なく、久しぶりに現役の皆さんと様々なお話をしながら歩いていると時間が短く感じられました。参加された皆さんには御礼申し上げます。

最低限の確認だけでしたが、小屋が無事でしたので一安心しました。



(ダムにて)

2023年 秋の小屋作業 ～次世代パワーの息吹～

20期 松下 和隆

【日程】

2023年秋、10月7日～10月9日（2泊3日）

【参加者】

■ OB（5名）

（15期）坂尻忠秀

（20期）久富象二、高田泰夫、松下和隆

（22期）黒崎敏男

■ 現役（5名）

（66期）大倉幸章（部長）、江尻伊吹（副部長）、
林 岳瑠 （67期）濱本倫太郎、安田恵輔

■ 集合写真（ベルクハイムにて）



（後列左から敬称略）久富、高田、坂尻、松下、（前列左から）濱本、黒崎、大倉、江尻、安田、林

【1】はじめに

5年ぶりの小屋作業だ。黒崎OB会長に、総会と小屋作業どっちに参加する？と聞かれ、ちょっぴり迷った。総会に出て旧友と久しぶりに再会してみたい。だが、コロナ禍での長い巣籠り疲れを考えると、小屋作業という響きに何とも言えない解放感を感じた。加えて思い入れもあった。倉谷で、ベルクハイムで、そして高三郎で、かつて仲間と汗を流したあのひとときが忘れられない。久しぶりのロングタイム（2泊3日）小屋作業だ。5年のブランクで体力面に不安もあった。しかしそれ以上に若い現役生達との交流も楽しみだった。実際、それは大正解だった。彼らには多いに楽しませてもらった。そして体力面でも随分と助けてもらった。今回は、次世代パワーに圧倒された小屋作業だった。

今回の参加者は総勢10名。それを3つの班（2名、2名、6名）に分けて行動した。第1班（久富、高田）は日帰りでベルクハイムの周辺清掃。第2班（坂尻、松下）と第3班（黒崎、現役5名）は2泊3日で、高三郎への道整備と登山を行った。

1日目は高曇りでまずまずの天候。犀川ダムからは明日登頂を目指す高三郎が見える。重たい荷物（食料やテントなど）を分担し、秘境の地、倉谷へと向かった。



犀川ダムサイトにて。後方には明日登頂を目指す高三郎が見える。

【2】難を免れた、高桑（19期）さんの碑

ダムサイトを出発して歩くこと約30分。第一の切れ込み（カン谷）を過ぎた所で大規模な土砂崩れに遭遇する。ここは高桑さんの碑や（元住民の方の）顕彰碑があった場所だ。道のほぼ全域が岩石で埋まっている。顕彰碑には直前まで土砂が迫り、ダム湖に落ちる寸前で止まっている模様。他方、そのすぐ横にある高桑碑は奇跡的に難を免れていた。何か運命的なものを感じる。高桑さんの在りし日の笑顔が思い浮かんだ。皆でブッシュを刈り取り献花する。



（左）大規模な土砂崩れ

（右）押し流された顕彰碑



奇跡的に難を免れた高桑碑

【3】 気が抜けない倉谷への道

出島まで来た。かつて新トレを経験されたOBの方なら、ここまで来るとベルクハイムはもう近いとお思いのことだろう。だが、そうは問屋がおりさない。ここからが難所続きなのである。出島から吊り橋へと続く300mほどの区間は、まったく気が抜けない。ヘツリ状に狭くなった箇所が数か所あり、補助ロープ無しでは歩行が困難な状況だ。倉谷川までの落差は10mほどだが、足を滑らせるとやはり大怪我をするだろう。ザックを斜面にこすらぬよう、慎重に通過する。



狭くなったヘツリ状の道

ここをなんとか無事に通過して、吊り橋に至る。ほっと一息ついたら、やっと秋の景色が眼に入ってきた。吊り橋を渡ると旧倉谷村。ここはもうすっかり秋だ。栗の実を踏みしめながら歩く。実がポンと飛び出る様はなんともかわいい。秘境の地の秋は、静かでとても味わい深い。

この快適なハイクもつかの間、第二の難所がやってきた。水量計周辺のヘツリである。倉谷の水量は少なくなっているものの、アクロバティックな丸太の道は、相変わらず気が抜けない。



気が抜けない丸太道

【4】 ベルクハイム到着、と思いきや

丸太道を抜けてやれやれと思いきや、秘境の面影はまだあった。目の前の河原一帯が、ススキの猛烈なブッシュに覆われていたのだ。道の痕跡などどこにもない。ブッシュの中へ手探りで突っ込む。もがくこと20分。やっとのことで小屋前の坂に出た。目と鼻の先にあるはずの小屋がこんなに遠く感じたのは始めてだった。

予定より1時間ほど遅れた11:30ころ小屋に到着。みんなへろへろだ。まずは小屋の中で昼食。その後、日帰り隊（久富、高田）が水確保のためホースを調査し取水を試みる。しかし、水はチョロチョロと出たもののその後まったく出ず。ホースに亀裂3ヶ所とバルブ不良1ヶ所がある模様。漏水が激しく、本格的な修理が必要と思われる。

13:00ころ日帰り隊は下山。その他のメンバーは草刈機2台を持参して、今夜のテン場（新道850m付近）へと向かった。



ベルクハイムにて。しばしの休息

【5】 テン場がない！

再びボッカが始まった。倉谷川に沿って金山谷まで歩く。以前あった丸太橋はもう影も形もなく、飛び石を頼りにぴょんぴょんと渡渉する。



金山谷の渡渉

新道の登りに取りつく。最初の急登 300m は地獄だった。ロープや枝を掴みながら這いつくばって登る。前に行く現役生達にすぐ置いて行かれる。ああ、俺も随分とジジィになっちまったものだと、身に染みて感じた。前を歩く現役の林君がやさしく気を遣ってくれる。「松下さんが遅れてま〜す。ちょっと待ってくださ〜い」と。

急登が終わり標高 700m ぐらいからは、ブナ林の緩やかな道が続く。この辺りから草刈り作業を予定していたが道の状態は良くそのまま予定のテン場（850m 付近）まで進んだ。しかし、いつになってもテン場が現れない。結局見つけられないまま栃倉分岐まで行ってしまった。もう誰も来ないだろうという予想の元、ここで設営させてもらう。草刈り機でスペースを広げ、3 張り（6 人、3 人、2 人用）を設営することができた。



栃倉分岐にて設営

次の朝、予定のテン場が見つけられなかった原因を探りに来た道を下ってみた。現場を見て納得。5 年前に切り開いたテン場はもはや影も形もなく草木に覆われていた。完全に自然に還っている。これじゃ見つけられないわけだ。



5 年前のテン場（道の右側）。自然に還ってしまう

【6】高三郎登山 & 登山道整備

2 日目は、高三郎登山と道整備を実施。天候は高曇りでまずまずだ。黒崎氏リーダーのもと現役 5 名は、予定通り 7:00 頃、高三郎に向かって元氣よく出発した。



高三郎に向かう黒崎氏と現役生たち

彼らを見送った草刈り隊（坂尻、松下）は、2 台の草刈り機を使って栃倉分岐からクラコシ尾根へと草刈り作業に専念。深いブッシュ（笹と灌木）と格闘しながら 500m ほど道を開いた。5 年もたつと、あっという間に元のブッシュだ。



（左）笹ブッシュに突っ込む現役生

（右）そこを刈る坂尻氏

10:30 ころ黒崎氏から無線が入り、全員無事、高三郎に登頂したと連絡があった。このブッシュじゃ現役生達もきっと苦労したことだろう。案じてただけにひとまずホッとした。その後我々も草刈りを再開。やがてガス欠となり昼食とした。

13:00 頃に登山隊と合流。激しいブッシュ漕ぎと気の抜けない道に、みんな疲れた様子。ご苦労さん。それでも現役生達は充実した様子。普段の部活動とは一味違うこの山行に、スキルアップした、自信がついた、などの感想をもらしていた。この倉谷というワンダーランドに、少しでも興味（遊び心）を持ってくれると嬉しいね。



(左) ナイフリッジを歩く現役生

(右) 高三郎登頂に歓喜する現役生

【7】感想と今後について

今回は、現役生達がとにかく明るかった。おしゃべり大好きで、歩いていても賑やかだ。テントの中でも小屋の中でも、わいわい、がやがや、とっても仲良し。我々OBも多いに楽しませてもらった。話題も豊富で、2日目の夜は、小屋で遅くまで語り合った。私は調子にのって、いつの間にか、ベルクハイムの生い立ちや先輩達の思い出などを（くどくどと）語っていた。

「ベルクハイムは人里離れた秘密基地のようなもの。かつての先輩達は、ここで魚釣りやキノコ採りなどを思い思いに楽しんだ。中には卒論研究のフィールドベースとして、この小屋を活用していた人もいたのだよ」などなど。

ここで私は、はっと気がついた。こりやまずいぞ、年寄りの昔話で彼等を退屈させちゃった、と。しばしの後悔。ところが彼らの反応は逆だった。この小屋を自分たちのものとして活用してみたいと言う。そのためには、何をやるべきか。彼ら

は次のように語ってくれた。

- (1) まずは小屋までの危険な道を整備すること。スキルのない部員でも安全に小屋へ来られるようにしたい。
- (2) 次に小屋の雨漏り修繕や水の確保など。快適な居住空間を整備し、釣りなどを楽しめるようにしたい。

同志を募りこれらをぜひやってみたい。ただ、僕らにはこうしたノウハウが無いので、OBの支援をぜひ仰ぎたい、とのことだった。

これらの案件は、来年2月頃に催されるOBと現役生との懇親会で相談される予定。現役の、次世代パワーに期待したい。



陽気でパワフルな現役生達（金山谷）

【追記：現役の皆さんへの情報提供】

最終日の帰りに、高巻ルートを使用しましたね。それは下記地図では（BH→④→ヤセ尾根→⑩）のルートです。また、皆さんと一緒に鉄塔まで偵察に行った際、そこで私がアドバイスした道は下記③のことです。ご参考まで。



高巻ルートの水平化案（梶氏作成、やまざと 2018より引用）

現役より

66 期 大倉幸章

みなさん、こんにちは。金沢大学ワンダーフォーゲル部 66 期部長の大倉幸章です。この度、黒崎会長よりやまざとへの寄稿の機会をいただきましたので、今期の活動概要と今後の展望について簡単に紹介したいと思います。拙い文章ではありますが、現役時代に思いを馳せつつ今日の部活動を知っていただければ幸いです。

現在のワンゲルでは 11 月に運営代の引継ぎが行われており、3 年生が中心となって部長・副部長・会計・SNS の固定役職に加え、適宜山行の責任者を定めております。この中で現代ならではの



(白山スキー合宿)

役職として SNS がありますが、これは主として Instagram や LINE や X(Twitter)などのメディアで部の発信を行うものになります。春に新入生を呼び込む際は、従来のビラ配りとポスター掲示に加え、SNS を通じて説明会や各種体験会の広報を行っており、多くの人が SNS の投稿をもとにして各種イベントに参加します。

今期の運営代が初めに行った行事は、2 月の白山スキー合宿です。コロナウイルスの影響で大学側より宿泊を伴う活動が禁止されてしまっていたので、3 年以上の空白を経たのちの合宿となりました。長きにわたる禁止により合宿のノウハウが失われてしまっていたため、必要なものや計画をイチから運営代で話し合い、何とか実現させる

ことができました。1 泊 2 日ながらも昼はスノースポーツを楽しみ、夜は貸し切った山麓のロッジで料理やゲームに勤しみ、温泉に入って帰路に就くという、大変充実した合宿となりました。

雪が融けて浅野川沿いの桜が見ごろを迎える春、新入部員の勧誘が始まります。今年はビラ配布と SNS を通じた広報で部員を募りました。今日、部の SNS では説明会や各種体験会の広報を積極的に行っており、多くの人が SNS の投稿をもとにして各種イベントに参加してきました。

また 66 期からの新たな取り組みとして、留学生の受け入れも開始しました。説明会や資料作成を英語で行うのは少々手間のかかる作業ですが、部が異文化交流の空間となり、留学生が日本の美しい自然を体験できることから意義深いものになったと考えています。案外山登りに興味のある留学生は多いようで、台湾・中国・韓国といった近隣国の学生のみならず、ドイツ・オランダ・ブラジルなど遠方の国からやってきた留学生も入部する結果となりました。

新入生が入った部がまず行うのが新歓 BBQ であり、医王山のバーベキュー場で肉を焼きながら交流を深めます。本格的な登山の前に医王山を散策し、自己紹介を交えて部全体の一体感を醸成するものです。山の軽いイメージを掴みつつ、部会で山に関する知識を学んだところで実施されるのが新歓登山です。例年行き先は医王山であり、毎年何人かが滝に入ります。また、この新歓登山では次の運営代を担う 2 年生が初めて班長となって計画を立てます。バスを逃してしまうなどのトラブルがあったものの、今年も新緑の中を無事故できました。



(医王山新歓山行)



新歓BBQ



新歓登山

医王山を経てある程度山に慣れた7月には、白山に行っていました。今年は「白山に登りたくて金沢大学に来た」という気合の入った部員もあり、全ての班が少なくとも室堂まで登ることができました。室堂や山頂付近は曇ってしまっており景色を楽しむことは叶いませんでしたが、多くの部員が満足気に山を下りてきました。

途中でアニメキャラクターのコスプレをした他の登山者と交流したり、高山植物の写真を撮ったりするなど、各々が思い思いに山を楽しんだようです。そんな素晴らしいものとなった白山登山ですが、多数の部員が車を持っていない現状において、チャーターしたバス以外で白山に行くのは難しく、OBOG会の支援があってこそ行うことができました。この場をお借りしてOBOG会の皆様に、深く感謝申し上げます。



白山バス



白山登山口



白山山頂



(白山山頂)

夏休み中には、富山県は立山連峰への登山も行いました。一人暮らしの部員が多く夏季休暇中は実家に帰省していることもあって参加者は多くありませんでしたが、暑い麓から離れて青い風と雄大な自然を全身に受けることができました。この登山は1泊2日での開催となった為、短期間ながらも登山合宿が数年ぶりに息を吹き返したこととなり、個人的に嬉しく思っています。

また今期のワンゲルを語る上で外せない活動として、ベルクハイムの整備があります。今期は5月と10月にOBOG会の方と共に小屋を維持する作業を行っていました。私は5月に始めてベルクハイムを訪れましたが、あれほどの山中に水洗トイレを備え、内部で立ち上ることができるほどの建物があることに驚嘆いたしました。小屋作業では周辺の草刈りと部屋内・トイレの清掃を行い、中で食事を摂るなどしました。10月の作業

は高三郎山の登山を含めた2泊3日のものとなり、厳しい道中ではあったものの、またとない経験を積むことができました。



これらの経験を踏まえ、現在現役の間では素晴らしい小屋をどう活用するかといった議論が活発に行われています。私としてはあの場で焚火をしたいと考えていますし、次期運営代からは魚釣りや新歓登山合宿をベルクハイムで行いたいという声が上がっております。また、将来的には発電機構を整備し、内部での照明を確保したいという野心的な意見もありました。

しかしながら、整備に参加した現役の間では「今のままではとても新入生を連れてくることはできない」という共通認識があります。設備的な面では、水洗トイレや手洗い場を機能させるためのパイプに異常があり、水が出ない状態にあります。女子部員も多く在籍し、今後の料理等での活用を踏まえると、導水にかかる再整備は是非行っていきたいところです。

また、より深刻な問題としてベルクハイムまでの道が険しすぎるという問題があります。今期山小屋整備に参加した現役はいずれも山によく慣れたメンバーであり、お互い助け合って何とか通過することができました。しかし人によっては足が竦んで動けなくなってしまうような危険箇所が、吊り橋前後を中心にいくつもあります。

ベルクハイムの未来を考えたとき、「普通の山道」の整備は、絶対必要であると考えています。水道管を運搬し、スコップで道を拓いていくなどの力作業は現役が担うことができますが、導水そのものの設計やダムまでの移動など、どうしても現役だけでは難しい部分があります。

素晴らしい山小屋をゼロから創り上げ、そして発展させてきたOBOG会の皆様のご力添えを、是非お願いしたいと思います。再びベルクハイムをワンゲル団結の象徴と憩いの場にしたいです。どうぞご検討のほどよろしくお願いいたします。



(春の小屋作業)

私事にはなりますが、この文章を書いている私の部長としての任期は残すところあと少しとなり、運営代を降りることに若干の寂寥感を覚えております。日々の登山に加え総会や山小屋整備などを通じて様々な方と交流する機会を頂戴しましたが、60年の歳月を経ようとも、山とこの部の素晴らしさは変わらないことを認識することができました。次の運営代である67期にも、この部を思い、発展させんとする意志を感じます。次の代も、その次の代も、山と金沢大学ワンダーフォーゲル部の魅力と伝統を継いでいってくれると考えています。

最後に、OBOG会の皆様に感謝の意を表明し、私たちの活動に対するサポートをいつも頂いていることに心より感謝申し上げます。今後も山小屋の再整備や登山の補助等を通じ、現役を支援してくだされば光栄です。皆様のご支援と協力に心より感謝いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

金沢大学ワンダーフォーゲル部 66期部長
大倉幸章

WVOB 会（1期～4期）報告： 2023「白山市大会」と、これまでの歩み

4期佐藤秀紀（3期西尾皓史）

はじめに

この報告文は2部からなっており、1部ではこの会の今年2023年の例会報告（佐藤秀紀（4期）記）、2部ではこの会のこれまでの歩みについての報告（西尾皓史（3期）記より）、となっており、佐藤がまとめて投稿したものである。

この会は今から65年前（昭和33年（1958年）1期～3期OBで始まり、その後4期が加わった。また、特別ゲストとして7期の村田さんが加わっている（詳細は第2部「これまでの歩み」参照）。

第1部 2023「白山市大会」報告

今年の年の初め、これまでこのOB会の事務局兼総監督をやっておられた西尾さん（3期、小松市在住）より、コロナ禍もあり活動を休んでいたOB会の今年の例会を、ご本人の体調不良もあり、私に実施してほしい旨のメールが届いた。この年齢（3～4期で82～84歳）では、これまでのような旅行形式ではなく、一晩ゆっくり顔を合わせて懇親を深めることを目的とした形式で進めることで了解を得て、1泊2日の企画を進めた。以下、経過を報告する。

<プロローグ>

6月末に、9月末日に開催の全体OB会「65周年大会」の翌日に「白山市大会」開催を連絡し、7月末で12名（全会員19名）の参加返事を受けた。その後、諸般の事情で3名が参加できなくなり結局9名での参加となった。北、北野、佐々木、朝井、佐藤、清水、高田、高野、橋本であり、3期3人、4期6人である。

（日程）

1日目：

13:30 金沢駅改札口集合→3台の自家用車に分乗して白山比咩神社へ。

14:20 表参道から白山比咩神社参拝。

15:30 白山比咩神社出発

16:00 「白山里」（白山市瀬波 51-5）着（宿泊）

2日目：

9:30 宿出発（車3台）

10:00 獅子吼高原ゴンドラ乗り場→ゴンドラにて獅子吼高原へ。散策。

11:30 ゴンドラ駅出発

12:30 金沢駅着：解散

<1日目：10月1日（日）>

13:30 に金沢駅改札口に集合（北氏は現地で合流）。地元会員3名の車に分乗し、鶴来の白山比咩神社に向かう。神社の表参道から参拝の予定で下の駐車場に向かったが、当日は「一日参り」があり、多くの車で駐車場が混雑。そのような風習があることに気づかぬ不信仰者であるので、改めて当神社の存在と信仰者の多さに驚かされた。なんとか表参道からの参拝で荘厳な杉の巨木の石段参道を上がり、多くの参拝者に交わって参拝し、記念写真を撮った。

社殿右側には「白山遥拝所」があり、白山に登られない人も、その霊験を授かるとされた。白山比咩神社は現在は白山をご神体とする白山信仰の総本宮として全国の白山神社3千余を束ねる。



白山比咩神社前にて(2023.10.1)

その後、宿泊施設の「白山里」へ向かう。ここは鶴来から白峰へ向かう国道157号線を吉野谷に入ってすぐにある、瀬波川沿いの静かな山間の一軒温泉宿泊施設である。

前回の2019年「東京大会」以来、コロナもあって4年ぶりの例会である。懇親会の前に長く会員であった物故者へ黙祷を捧げた。近年では、岩井、登内、鈴木、田村の3期諸氏。次いで、各自近況を交えて一人ずつ話してもらった。いまだに

現役で仕事をしている者、体は衰えてきているが趣味を楽しんでいる者、足腰が弱ってきて日常が厳しい者などなど。四方山の話で盛り上がった。

食後席を幹事部屋に移して、今後のこの会の運営について話し合った。皆さん一様に、会・行事の存続を望み、案内があればできる限り参加したい。ただし、幹事役の苦労も考慮して一泊で泊まることを主体にした会合にしてはどうか、などの意見が多数を占めた。さしあたり来年も開催することになった。元気であれば、佐藤がお世話をしてもよい、と申し出た。

<2日目：10月2日（月）>

早朝散歩に出た。この近くには鉢伏山、笈山、恐山（オンソリヤマ）などの低山登山口があり、近辺随一のカタクリ群落もあって、春のシーズンには人気がある。

朝風呂に入りゆっくり朝食をとって9:30頃に車3台で宿を出る。

10時頃に獅子吼高原ゴンドラ下駐車場に着き、ゴンドラに乗る。ここで思いがけなく、7期のメンバー村田泰恵さんがおられ、合流された。ゴンドラで標高差450mほどを一気に上がると、獅子吼高原が広がり、展望所からは眼下に手取川を含む扇状地が日本海まで広がっているのが見渡せて素晴らしい景観である。今年2023年5月に、これらを含む白山市一帯が「白山手取川ジオパーク」として、日本で10番目の世界ジオパークにユネスコで認定された。ジオパークとは大地の遺産の保護と活用を目的とした自然公園である。

ここ獅子吼高原はまたハンググライダーやパラグライダーなどのスカイスポーツの拠点としても環境条件が良く有名である。

しばらく自由散策をしたのち、再びゴンドラで降りた。当初は金沢駅で解散としていたが、駅は混雑しており駐車のこともあるので、最近金沢で人気の「石川県立図書館」（旧工学部跡）まで行くことにし、村田さんとはここで別れした。山側環状道路から小立野台地に上がる新設道路を通過して図書館前に入り、同所に最近移転した市立美術工芸大学も含めてユニークな外観を眺め、来年の元気な再会を約して一応解散とした。金沢駅へ行く者は再度車で駅へ向かった。

<エピローグ>

今回はこれまでほとんどすべての大会に参加

され総監督をされてきた西尾さんが体調不良の為おられないのは大変淋しかった。また、ここ数年で3期の親しく長く参加されておられた、登内、鈴木、田村の諸先輩が鬼籍に入られたことは何とも寂しい限りである。しかし、今回久しぶりに集まった諸氏が、この会の存続と参加を切望されたことは大変喜ばしい限りである。今回都合で参加できなかった諸氏も含めて、来年の例会も是非実現して元気な顔を合わせたいものである。会員諸氏のご健勝ご多幸を切に祈る。

第2部 WVOB会（1期～4期）のこれまでの歩み

（以下は2023「白山市大会」参加者に向けて、欠席された、これまでの総監督：西尾皓史氏（3期）が寄せられたメッセージと記録である）

今から遡ること65年前、昭和33年（1958年）5月24日（たしか土曜日だったと思うが）午後1時30分～、金沢城の跡にあった金沢大学教養部の「尾山食堂」2階で、第一回会合が開催されました。

発起人は、田村昭夫、鈴木兵一、会津若松出身の二人の雄士で、これが金沢大学ワンダーフォーゲルクラブのスタートであった。

4年間の現役時代のワンダーフォーゲル活動は実に多彩で華やかで、辛いこともあったが、いろいろと素晴らしい思い出を作ってくれました。

例えば、食当（食事当番）で雨の中での飯盒炊飯、暑い真夏の太陽を浴びながらの急な登り、或いは、雨の中ガスで一寸先も見えない中の強行軍、いろいろ辛かったはずの体験が、今思い出すと大変懐かしい。

クラブ活動の現役の4年間はアツと言う間に過ぎ去り、卒業後、“渡り鳥”達はそれぞれの社会分野で活躍し躍動を続けてきておりお互いの交流も途絶えがちになっていました。そして40年程の歳月が過ぎ、そろそろ定年を迎え始めた1998年に、金沢大学ワンダーフォーゲルクラブOB会の「創部40周年記念大会」が医王山で開催されました。

その時、第3期から、田村、鈴木、北、西尾の4名が参加しましたが、「40周年記念大会」終了解散後、4人で一泊和倉温泉に行こうということになりましたが、出発の時に、田村さんの姿は消

えてしまつて見つからない。やむを得ず田村さんを残して、我々3人で和倉温泉へ出かけ、夕食を摂り乍らいろいろと話し合いした中で、「同期のWVOB会を作ろうよ。」ということで衆議一決し、それならば女性軍の協力も是非必要だということで、早速、金沢在住の北野倫子さん、安藤道子さんに電話して快諾を取り付けました。

そして翌年、1999年5月に第一回大会「医王山・白峰大会」を開催することになり、以来今日までの24年間にわたり、32回もの多くの大会を開催することができました。

これだけ多くの大会を継続して開催することができたのは、メンバー全員の力であったのは当然ながら、特に、それぞれの大会を企画・立案し、実施にこぎつけた、佐藤さん、森島さん、清水さん、高田さん、北さんらの努力が実を結んだお蔭であったと思います。

今回の「白山市大会」には、私自身体調不良のため参加できないのは断腸の思いですが、参加される各メンバーが楽しく愉快に盛大な交流になることを心から祈念しております。

金沢大学WVOB大会(1期～4期)のあゆみ

回	平成(年)	西暦(年)	月	日	行 先	担当
第1回	平成11年	1999	5	8～9	医王山・白峰	西尾
第2回	平成12年	2000	9	9～11	立山・能登	西尾
第3回	平成13年	2001	8	25～26	山の坊	西尾・登内
第4回	平成14年	2002	5	18～20	会津若松	鈴木・田村
第5回	平成15年	2003	5	22～24	平湯・新穂高	西尾
第6回	〃	2003	9	14～15	内灘	西尾
第7回	平成16年	2004	5	14～16	越前海岸・永平寺	西尾・佐々木・朝井
第8回	平成17年	2005	5	13～15	琵琶湖一周	西尾
第9回	平成18年	2006	5	19～21	伊那路	登内
第10回	平成19年	2007	5	18～20	名古屋・犬山	森島
第11回	平成20年	2008	5	16～18	姫路・赤穂	下出
第12回	〃	2008	9	15～16	湯涌温泉	佐藤
第13回	平成21年	2009	8	27～29	立山・黒部アルペンルート	登内・西尾
第14回	〃	2009	11	13～19	タイ・バンコック	北
第15回	平成22年	2010	5	13～15	浜松	清水
第16回	〃	2010	10	13～15	山口・萩・津和野	岩井
第17回	平成23年	2011	5	16～18	房総半島	鈴木
第18回	〃	2011	10	17～20	北九州	高田・石橋・大崎
第19回	平成24年	2012	5	29～31	新潟上越・佐渡ヶ島	森島
第20回	〃	2012	9	4～5	八方尾根・桐池高原	橋本・佐藤
第21回	平成25年	2013	9	23～24	白山麓・福井	佐藤・村田
第22回	平成26年	2014	5	28～30	湯の山温泉・伊勢神宮	森島
第23回	〃	2014	10・11	30～1	鎌倉・城ヶ島	清水
第24回	平成27年	2015	5	27～29	倉敷・金毘羅	岩井
第25回	〃	2015	10	5～7	角館・秋田駒・乳頭温泉	佐藤
第26回	平成28年	2016	5～6	30～1	富士山麓周遊	清水
第27回	〃	2016	10	11～13	能登	佐藤
第28回	平成29年	2017	6～7	29～1	広島・宮島	北野
第29回	平成30年	2018	5	24～26	木曽路	森島
第30回	平成30年	2018	9	16～17	南加賀周遊	西尾
第31回	平成31年	2019	5	19～21	東京	清水
	延期・保留				黒部峡谷・氷見	西尾
第32回	令和5年	2023	10	1～2	白山市大会	佐藤

「チバニアン」、ハイキング + 飲み会

9 期 吉田洋次郎

令和 5 年 4 月 10 日、日本列島は高気圧に覆われて雲ひとつない晴天、最高気温は初夏かと思えるほどの暑さでした。

そんな日に千葉組の伊藤俊成、鍋島武と吉田洋次郎（いずれも敬称略）が「チバニアン」へのハイキングに出かけた。朝 JR 内房線五井駅に集合して小湊鉄道に乗り替えた。

その時、鍋島が「今日は自宅にスマホを忘れてきた」とぼやいた。実はそのスマホの地図情報にハイキングのルートを入力してあったのだ。これが後程大変なことに繋がったのである。

小湊鉄道は SUICA や PASUMO が使えないので現金で切符（1 日フリー乗車券：2,000 円）を買った。

約 1 時間で目的地の月崎駅に到着した。



【月崎駅にて、鍋島、伊藤】

さて小湊鉄道の途中駅にはなかなか読むのが難しい駅名があった。では問題です。次の駅名は何と読みますか？

海土有木

飯給

答えは末尾に。

「チバニアン」への道は道標が整備されていて道に迷うこともなく、田園・里山の小道を順調に歩くことができた。カエルや鶯の鳴き声があちこちから聞こえてきた。

約 1 時間で「チバニアンビジターセンター」に到着した。センターで地磁気逆転などを紹介するビデオを見て知識を頭に入れて現地向かった。

急な坂道などを下って数百メートル歩き、養老川に下りた。



【養老溪谷の絶景】

そこは令和 2 年（2020 年）に国際地質化学連合で承認された国際協会模式地（GSSP）「チバニアン」である。



【チバニアンはこのふたりの年齢の一萬倍】



【地磁気の方向を調べるためのコア採取跡】



【白い地層（御嶽山の火山灰：77 万 4 千年前）の下層がカラブリアン、上層がチバニアン】

次の目的地上総大久保駅を経て「石神菜の花

畑」を見るために出発した。ところがいつまで歩いても大久保駅が見えない。途中畑仕事をしていての方に尋ねると道を教えてくれた。「この道を行って三叉路を右に曲がって橋を渡れば大久保駅」とのことであったが、橋を渡って数百メートル歩いても到着しない。

先の方で遮断機の警報音が聞こえ、電車が通過していったが大久保駅は何処にもない。仕方ないので踏切付近で地図を広げて、ああでもないこうでもないと話すと20分ほどでやっと伊藤俊成のスマホと地図で現在地が分かった（鍋島がスマホを忘れてきたのがここで影響した）。

来た道に戻って橋の手前で右折し、やっとのことで上総大久保駅についた。

駅のベンチで持参した昼食をとって一休みしているとダイヤに載っていないのに電車が到着した。女性車掌にらせてくれるかと聞いたがあっさりと拒否された。団体専用の臨時列車のようだ。

駅前広場のハイキングコースの案内板をスマホに撮って養老溪谷駅に向かってまた歩くことにした。



【Bコース：約6km弱】

いくつかのトンネルを経てゆっくりゆっくりと歩いた。千葉県には高い山がないはずなのに結構登りがきつかった。やっとのことで養老溪谷駅に到着した。

本来の計画では弘文洞跡など養老溪谷を巡る散策の予定であったが、喜寿を過ぎた3人は疲れ果ててしまった。



【養老溪谷駅付近の小湊鉄道の鉄橋】

数分後に五井方面の列車があることが分かって“早くビールが飲みたい”との考えが一致し、列車に乗った。五井駅でJRに乗り替え、千葉駅で京成電車に乗り替えて3人の最寄りの京成津田沼駅で降りた。

幸いにも駅前の庄屋が16時から営業しており、中に入った。全員が生ビールを注文すると唐揚げが2個サービスでついてくる（最初の1杯だけ）とのチラシを見て注文し、ビールで乾杯した。

その後は追加のビールをもう1杯ずつ飲んで各自好きな酒（日本酒や焼酎）に移った。

まだ明るいうちに切り上げ、家路についた。

さて問題の答えは

あまりき

いたぶ

です。

読めましたか？

積み残した養老溪谷のハイキングは、次回（秋ころ）に挑戦することになった。

以上

2023 年いちご会(11 期会) 報告

11 期 井上史三

創部 65 周年、そしてコロナ感染症の 5 類移行という歴史的？節目の年のいちご会は、OB 総会の日程に合わせて福井一乗谷は戦国時代からの朝倉氏遺跡探訪を楽しみました。

実施日：9 月 29 日～30 日

当日集合場所の福井駅改札口に集まったのは、泊地（休暇村越前三国）直行の片田氏と訳あって宿直行に変更した青柳氏を除く今回の参加者 11 名。3 台のタクシーに分乗して、一路一乗谷へ。道のりは参加者の興味と能力に合わせて健脚組（約 4km）とセミ健脚組（約 2km）に分かれて、一乗谷城下町を探訪散歩。

健脚組：加藤夫妻、上村氏、窪田氏、杉森夫妻、井上史の 7 名は、一乗谷谷あいの防御のための土塁を持つ上城戸から復元城下町、唐門と庭園を擁する朝倉間跡、土塁と巨大な石垣造りの櫓形下城戸を経て、足羽山笏谷石を使った石仏群の西山光照寺お跡そして一乗谷駅へのコース。



復元町並の中で



下城戸巨岩櫓形の前で

セミ健脚組：北川氏、高田氏、向幸子さん、井上和の 4 名は、復元城下町をのぞき見し、唐門前で鯉に餌をやり、バスで一乗谷駅そばの新博物館へ。



復元町家を覗く



唐門前で鯉に餌やり

道すがら、一同は、信長勢に焼き討ちされ、400 年間も地中に眠っていたことを偲びつつ、往時に思いを馳せたひと時でした。

宿泊地の休暇村越前三国では青柳、片田の両氏がにこやかに待ち構えておりました。（笑）



やっと全員集合！ 休暇村にて

夜には、コロナ禍明け、久しぶりの大宴会にて旧交を温めあった次第です。

翌日 30 日は次回を期してバイキング朝食後解散。あとは各自自由行動で帰途につく者、勝山恐竜博物館、三国市街散策&滝谷寺探訪へと向かう者とに分かれました。

ここで今回の旅は終わったわけですが、実は今回のこの企画は、向幸子さんのご夫君 沖継さんの企画によるものでしたが、沖継さんは約一か月前地元の会合時怪我をされ大事には至らなかったものの出席は諦めざるをえませんでした。

ここにあらためて企画の御礼感謝を申し上げます。

夕刻に金沢 KKR ホテルで OB 総会懇親会に出席。



なつかしい顔！顔！顔！

■参考までに.....

越前朝倉氏年表

1337 (延元 2) 朝倉広景が但馬から越前に入国

1467 (応仁元) 応仁の乱勃発。初代孝景、西軍で奮闘

1471 (文明 3) 孝景東軍に寝返る。越前平定を目指す

1567 (永禄 10) 5 代義景、足利義昭をかくまう

1568 (永禄 11) 織田信長が足利義昭と上洛

1570 (元亀元) 信長越前侵攻

1573 (天正元) 信長の侵攻と景鏡の裏切りにより、越前大野にて義景自刃。朝倉氏滅亡。

■一乗谷 MAP



加藤氏作成ルート図

※資料等提供いただいた加藤忠好氏に感謝申し上げます。

出会って 50 年 そして今年は

15 期 奥名 正啓

1. 出会って 50 年

1970 年昭和 45 年それは私たちワンゲル 15 期が出会った年である。そして迎えた 2020 年令和 2 年それは私たちが出会って 50 年の月日が積み重なった年である。連綿と続いた 15 期会は新型コロナまん延という思いもよらぬ事態の発生により中断を余儀なくされた。そんな会うことのできない中、これまでの歴史を振り返って記録に残しておくのも悪くないという思いで「出会って 50 年 記念誌」は作られた。

出会って 50 年 記念誌



KUWV 金沢大学ワンダーフォーゲル部 15 期

2022 年 11 月

そして今年、印刷物としての会報が最終回となるにあたり、この記念誌の存在を知らしめ、更に後輩へのひとつのメッセージとして記すよう天からの声が降りてきた。これには逆らえない。

よって、70 ページを越える大作の一部をこの最後にご紹介します。同期の仲間は今年金井が他界し、すでに 6 人が鬼籍に入った、この記念誌を開くたびに懐かしさと時に涙を禁じ得ない。



1991 年 40 歳の頃の 15 期会
子供たちの数の多さに今更ながら驚く

2. そして今年は

(1) 3月18日～19日 カキパーティ
参加者13名が材木町迎賓館に集結。
能登直送カキを大量に消費。

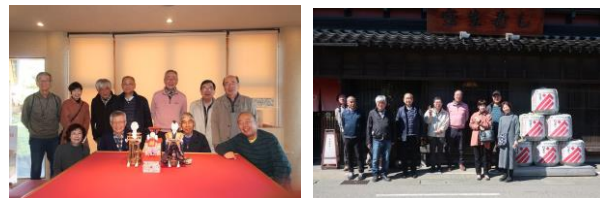


翌日は金石方面へ

まずは大野町にある「からくり館」

ここは幕末の発明家・科学技術者「大野弁吉」の業績を紹介しているところで大人も子供も楽しめる場所である。

茶坊主の人形が登場しいきなりのクイズにタジタジとなる。



宝生寿し (昼食)

今では超有名な金沢の寿司店となり、お値段もそれなりに立派になった。一方で金石にあった福寿司さんはいつの間になくなっていった。

金沢港クルーズターミナル

金沢港は 1970 年昭和 45 年つまり私たち 15 期が出会った年に開港した。38 豪雪で陸路が完全

に遮断され物流がストップしてしまった事を踏まえ海路の重要性が浮上してできたものだ。近年は大型クルーズ船の寄港が増え、玄関口としてこのターミナルが奇しくも2020年令和2年すなわち我々が出会って50年に開館となった。



クルーズターミナルより高三郎

(2) 9月30日～10月1日 65周年総会

創部65周年総会および懇親会に15期は9名が出席した。



翌日は我々の主将(部長)であった間所の墓に参り花を手向けた。越前町福井村田製作所宮崎工場 近くの小さな山の中、林に囲まれてそれはあった。

(3) 10月21日～22日 15期会 in 淡路島

今回の15期会は淡路島にて開催された。幹事は宇野。全員がいつのまにか70歳を越え、その中でも仕事に生きがいを持ち、働き続けている男である。そんな仕事の合間に早くから入念に計画をたて下見も怠りなく、全く頭が下がる思いである。

参加者15名

行程

10月21日(土)

- 10:30 神戸駅(海側) 集合(車に分乗)
- 11:05 あわじ花栈敷
- 12:00 「鼓や」(淡路島定食)
- 13:00 伊弉諾神社

13:40 おのころ島神社 ボランティアガイド



14:45 淡路人形座

バックステージツアーと戎舞

16:00 休暇村南淡路

20:00 (スターウォッチング)

10月22日(日)

07:00 散策(ウォーキング)

08:00 朝食

09:30 うずしおドームなないろ館

10:10 日本丸(うずしおクルーズ)



うずしおクルーズ「日本丸」と「咸臨丸」船が怖いのか渦潮が怖いのか最後まで抵抗して乗船しなかった君、その気持ち分かります。

11:30 道の駅うずしお in うずまきテラス(淡路島バーガー)

13:15 本福寺 水御堂

14:05 淡路 IC

15:00 神戸駅着(解散)

淡路島の旅を満足しつつ会えたことに喜びを感じた2日間、また来年も元気で会おうと誓いそれぞれの生活の場へ戻っていった。

以下「出会って50年記念誌」より抜粋

2020年、それは私たちにとっては出会って50年目となる記念となる年である。1970年（昭和45年）区切りの良い年であり、この年金沢大学ワンダーフォーゲル部第15期入部は当初30名、この年は大阪で万国博覧会が開催された年でもあるが、日航機よど号ハイジャック事件や大学のロックアウトを強く記憶している。そんな中で日本各地から集まって出会った。最後まで残ったのは19名であったが、すでに5人が鬼籍に入ってしまった。



1970 年当時の城内キャンパス



2020 年現在のキャンパス跡

本来この 2020 年に企画するはずだった 50 周年は、予想だにできなかった新型コロナウイルスまん延による感染防止策として緊急事態が宣言され、ほとんどすべての予定が中止となったため、続く 2021 年も見送られ、やっと 2022 年 15 期会を再開すると共に記念誌を発行するに至った。考えてみれば 50 年は人生にとってとてつもなく長い期間である。こんなに長い間付き合ってくれて「ありがとう」とみんな思っていることでしょう。この企画が、学生時代のことをはじめその後のこと、ほとんど見ることもなかったアルバムを開いてその時の事をあれこれ思い出させてくれた。ここにまとめたものは、以下の通り。

- 学生時代 特に夏合宿を中心として
- 「朋友倶楽」卒業時
- 山小屋 Bergheim と高三郎
- 50 年を経て今思うこと
- 15 期会の思い出
- 牡蠣パーティ

皆さんも色々と思い出して楽しい時を過ごせたのではないのでしょうか。原稿督促に苦しんだことも後になればひとつの思い出となって残るでしょう。

ワングル15期会の記録

	開催年	月日	開催地	幹事	内容等	参加人数
1	1985(昭60)年	10月中旬	蒲都市	佐野哲雄	三谷温泉、明治村	16名
2	1986(昭61)年	11月8～9日	京都市	金井澄	京都松ヶ崎に泊まり、京都市内散策	16名
3	1987(昭62)年	11月22～23日	尾口村・白峰村	上馬康生	ブナオ山観察舎、手取川ダム、白山麓民俗資料館	30名
4	1988(昭63)年	8月13～14日	南竜ヶ馬場		創立30周年白山登山、総会	
5	〃	11月12～13日	奈良市	松縄宏	奈良公園、東大寺	23名
6	1989(平成元)年	11月11～12日	福井県宮崎村	間所新一	越前陶芸村、陶芸体験	43名
7	1990(平2)年	11月10～11日	静岡市	増田富雄	久能山東照宮、日本平、登呂遺跡	39名
8	1991(平3)年	11月23～24日	金沢市	舟田節子	大学部室、犀川ダム、奥卯辰山 高村墓参	53名
9	1992(平4)年	11月22～23日	神戸市舞子	鈴木高村宇野金井	舞子ビラ泊、須磨海浜水族館などを見学	約60名
10	1993(平5)年	8月21日	金沢市	—	創立35周年総会 20～21日 記念山行(白山・南竜)中止	7名
11	1994(平6)年	5月14～15日	滋賀県朽木	横井昭次	朝日の村キャンプ場にてファイアストーム	28名
12	1995(平7)年	11月11～12日	石川県穴水町	坂尻忠秀	別所岳、リンゴ狩り	15名
13	1996(平8)年	11月3～4日	清里・小諸	佐野哲雄	清泉寮、小諸懐古園、比田井墓参	20名
14	1997(平9)年	8月2～3日	滋賀県伊吹山	宇野潔	キャンプ、伊吹山登山	20名
15	1998(平10)年	9月12～13日	金沢・医王の里	—	創立40周年総会・記念行事に参加	
16	1999(平11)年	9月11～12日	三重県桑名郡	祖父江直久	木曽岬温泉庄助牡丹鍋、なばなの里、横井追悼	14名
17	2000(平12)年	8月5～6日	南竜ヶ馬場	松林知一	ミレニアム白山登山(山荘・ケビン・テント泊)	30名
18	2001(平13)年	11月24～25日	京都市	鈴木・高村	竜王温泉、サントリー山崎蒸留所	16名
19	2002(平14)年	10月27～28日	北海道	渡辺純久	洞爺湖、昭和新山	
20	2003(平15)年	9月13日	白峰緑の村	—	創立45周年総会 14～15日 倉谷山小屋酒場	13名
21	2004(平16)年	10月10～11日	瀬女スキー場	松下重人	ケビンを利用 バーベキュー	
22	2005(平17)年	11月12～13日	神奈川県足柄	松縄宏	丹沢湖	10名
23	2006(平18)年	11月3～4日	金沢市	奥名正啓	21世紀美術館、徳田秋声・泉鏡花美術館、和服美人	20名
24	2007(平19)年	11月3～4日	小松市赤穂谷温泉	松林知一	那谷寺、松井秀樹ミュージアム、木場湯	14名
25	2008(平20)年	9月14～15日	金沢市	—	創立50周年総会(KKRホテル金沢)、浅野川河原での二次会	22名
26	〃	11月22～23日	三重郡菰野町	祖父江・佐野	湯の山温泉希望荘、朝明キャンプ場トレッキング	20名
27	2009(平21)年	11月22～23日	近江八幡市	間所新一	八幡山ロープウェイ、郷土資料館、旧西川家、八幡堀	20名
28	2010(平22)年	11月27～28日	輪島市	坂尻忠秀	輪島朝市、白米千枚田、キリコ会館	13名
29	2011(平23)年	11月26～27日	京都市	三宅毅	大原山荘 大原三千院、寂光院	21名
30	2012(平24)年	6月2～3日	犬山市	佐野哲雄	花フェスタ記念公園、犬山城	18名
31	〃	10月13～14日	奥飛騨温泉郷	佐野哲雄	秋の露天風呂を満喫、新穂高ロープウェイ	13名
32	2013(平25)年	2月10日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ①	14名
33	〃	9月22～23日	金沢市	—	創立55周年総会(KKRホテル金沢)、二次会と兼六園の日の出	13名
34	2014(平26)年	2月1日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ②	10名
35	〃	11月2～3日	神戸市	宇野潔	南京町、メリケン波止場、神戸港クルーズ、須磨離宮公園	23名
36	2015(平27)年	3月1日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ③	12名
37	〃	10月11～12日	上越市	松縄宏	春日山城跡、林泉寺、上越酒造見学、岩の原葡萄園見学	20名
38	2016(平28)年	3月5日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ④	15名
39	〃	10月9～10日	金沢市	奥名正啓	東山地区古地図めぐり、落雁づくり体験、和服美人	20名
40	2017(平29)年	3月4日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ⑤	12名
41	〃	10月8～9日	静岡市	増田富雄	駿府城発掘調査、臨済寺、静岡浅間神社、登呂遺跡	21名
42	2018(平30)年	3月10日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ⑥	16名
43	〃	9月15日	金沢市	—	創立60周年総会(KKRホテル金沢)	
44	〃	10月7～8日	白山市	上馬康生	手取峡谷、中宮展示館、ホワイトロード・三方岩岳登山	20名
45	2019(令和元)年	8月2日～4日	桑名市	祖父江直久	石取祭(日本一やかましい祭り)、健康診断、多度神社	21名
46	2020(令和2)年	—	—	—	コロナ禍で中止	—
47	2021(令和3)年	—	—	—	コロナ禍で中止	—
48	2022(令和4)年	10月9～10日	金沢市	松林知一	大乘寺丘陵公園、江戸村、県立図書館、国立工芸館	13名
49	〃	—	—	—	「出会って50年記念誌」	—
50	2023(令和5)年	3月18～19日	金沢市	坂尻忠秀	能登カキ・能登牛パーティ⑦・からくり館・金沢港	15名
51	〃	9月30日～1日	金沢市	—	創立65周年総会(KKRホテル金沢) 間所墓参	9名
52	〃	10月21～22日	淡路島	宇野潔	渦潮クルーズ・あわじ人形	15名

息子と歩いた8年の山旅

4期 佐藤秀紀

はじめに

ここ8年間、息子（次男 佐藤 誠(51)）との山旅を楽しんできた。息子は東京在住のサラリーマン（技術屋）である。昨年、こちらの体力の限界を覚えて、その山旅を終わりにしたので、それら山旅を振り返ってみたい。

ことの起こりは8年前の正月だったか、帰省中の息子に「一度屋久島の宮之浦岳を登りたいのだが、一人では心細いし・・・」と話したところ、「付き合っても良いよ」と返事が返ってきた。息子の山登りに関しては、小さい頃から中学生頃までは毎年研究室の学生との白山登山について一緒に登っていたが、大学生や社会人になってからは登山の話をあまり聞いたことがなかった。しかし、「付き合ってもいいよ」との返事には正直ありがたい、嬉しかった。それから8年間も息子との毎年の山旅が続くとは当時は思ってもみなかった。

これまでの山旅のリストを表に示す。思えばよく続いたものである。山を選んだのは主に私の方だが、息子も次第に山行を単独でもやるようになり、候補選びでも提案してくれるようになったのは大変嬉しいことであった。また、私も年と共に歳をとっていき、体力的な不安や計画の面倒さもあって、息子が計画を立ててくれ、一緒に同行してくれる山旅は本当にありがたい、嬉しい限りであった。心より、感謝している。

これらの山旅の中から、特に思い出の残るシーンなどをいくつかを記してみたい(本誌投稿の山旅はタイトル横に記した)

宮之浦岳

最初の山旅は前述のように屋久島の宮之浦岳を縦走し、島一番の屋久杉「縄文杉」を見る山旅であった。

屋久島安房の民宿に前泊し、淀川登山口から山に入った。屋久島特有の花崗岩の奇岩や山道を通って宮之浦岳(1936)に登ったが、ガスと強風で遠望きかず、早々に通過。無人の新高塚小屋に午後1時過ぎに到着。それほど大きくない小屋は、ま

もなく多くの登山客でいっぱいになり、最後には入口土間で寝袋を広げる者も多数いた。翌日小屋を出て1時間ほどで屋久島最大の屋久杉「縄文杉」を見ることが出来た。樹齢は推定で2700年以上7000年ともいわれる巨木である。ただし屋久島の特異な環境の為（多雨地帯、花崗岩大地など）、成長は大変遅く、巨木の姿は貫禄があり、神秘性を感じさせる。最低推定年数でも、紀元前700年も前から生きてきたことになる。正しく「縄文杉」である。この印象は強いものがあつた。



「縄文杉」前にて(2014. 4. 28)

仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳

南アルプスは全く知らなかったなので、この方面の山に登ることにした。

まず最初に仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳である。この山登りは終始雨にたたられた。北沢峠の「こもれび山荘」に泊まって翌朝仙丈ヶ岳に登ったが、頂上付近では雨・風強く周囲がみえないほどであり、雨具を着ていてもずぶ濡れで、山から下って水仙小屋に入った時には靴下まで水浸しであった。夜中小屋で寝ていても屋根をたたく雨音によく眠れない程であった。翌朝誰も出発する気配のない所を「行けるところまで行こうか」ということで



甲斐駒ヶ岳(2023. 8. 16)

出発した。雨はやんだが依然としてガスは深く、甲斐駒ヶ岳への登りは急登であるが、時折ガスの切れ間より見える摩利支天を頼りに登り、花崗岩の白い砂坂を登って、なんとか頂上に着いた。これら二つの山の頂上の記念写真は二つともガスで真っ白の中の写真が残っており、当時を思い出させる。厳しい状況程、後には思い出として残るものであろう。

白峰三山、鳳凰三山

前回の仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳があまりにも悪天候の中の登山で、どのような山容の山に登ったのかさえもわからないくらいであったので、是非近くの山からその山容を眺めてみたい、との気持ちもあり、白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）、鳳おび凰三山（薬師岳、観音岳、地藏岳）を次に登った。

北岳(3193)はどっしりした山容で、富士山に次ぐ第二の標高の山である。天候はよく、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳を今回はしっかり見る事が出来た。このような山に登ったのだと。また、このあたりではどこでも富士山の優美な山容を遠望することが出来るのが楽しい。特に農鳥小屋に泊まった翌朝、小屋から見た雲海の中の夜明けの富士山の景色は忘れがたい。また、農鳥小屋の古い山小屋の雰囲気と名物親父も忘れがたい。なお、谷を隔てて鳳凰三山も良く眺められ、次にはここに登ろうと決めた。

鳳凰三山では、前回歩いた白峰三山：北岳、間ノ岳、農鳥岳の3000m級の稜線の連なりを一気に眺めることが出来るのも素晴らしかった。また地藏岳の賽の河原地蔵越しに見る甲斐駒ヶ岳、地藏岳オベリスクの威容も忘れがたい。



鳳凰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳を背景に、2015. 9. 20）

燕岳・大天井岳・常念岳・蝶ヶ岳

独特の花崗岩の山容、コマクサ群落などが印象に残る燕岳、天候良く、槍穂高連峰がずっと見られた尾根歩きの展望のすばらしさ、蝶ヶ岳から上高地徳澤までの下り長さに閉口した思いが残る。

飯豊連峰（「やまざと」Vol. 32）

東北の奥まった山を歩いてみたい、残雪の稜線歩きと見事なお花畑を見てみたい、ということから飯豊連峰に行くことにした。東北の山は奥深く、前泊奥胎内ヒュッテも含めて4泊5日の長い山旅となった。縦走中3泊の山小屋は全て管理人はいるが寝袋持参・自炊のみ。水場も離れていることもある。この領域では登山者が少なく、静かで、ゆったりした、高山植物が豊富な山並みを時には残雪を踏みながら歩くのが魅力。ヒメサユリ、ミヤマウスユキソウ、イイデリンドウ、ハクサンイチゲ、シラネアオイ、ニッコウキスゲなどの群落が見られて楽しかった。



飯豊連峰・頼母木小屋にて(2017. 7. 13)

朝日連峰（「やまざと」Vol. 34）

飯豊に次いで朝日を昇る予定にしていたが前年肺炎になり1年延期しての山行となった。麓1泊、山中2泊の縦走である。一泊目の大鳥登山口宿から翌朝宿の車で泡滝ダム登山口まで送ってもらって登山を開始。当日は気温高く急登もあって、体力消耗激しくバテてしまった。頼りの息子もダウン寸前で、休憩の連続となった。以東小屋まではまだかなりあり、どうすべきか本当に困った。幸い、息子はなんとか回復し、這う這うの体で予定時間を大幅に遅れて小屋に到着。これまでの山旅で最も危機的状況であった。残りの2日は疲れを引きずった山旅ではあったが、天候はまあ

まあで、ゆったりした尾根歩き、高山植物ミヤマウスユキソウ、タカネマツムシソウ、ハクサンフウロ、ハクサンイチゲなどの群落に慰められた。また、最終日の早朝、大朝日小屋からの大朝日岳往復と山頂で見たご来光は素晴らしかった。

御嶽山（「やまざと」Vol. 35）

2020年、コロナ禍で山小屋が大変な時期、なんとか小屋が泊まれるというので登った。御嶽山は2014年の突然の噴火で友人・同僚の一人が亡くなった山であり、是非とも慰霊の登山をしたいと思っていた。また、白山からいつも雲海の彼方に突き出ている優美な山容を眺めてきた山でもある。事故から6年目にして、ようやく頂上直下のシェルターの横にある慰霊碑に、持参した蝋燭と線香を捧げ手を合わせることができた。二ノ池ヒュッテに泊まった翌朝、摩利支天山に登ったが、前日の最高峰剣が峰のがれきの山とは違って、賽の河原の広大な谷や尾根に咲く高山植物など、独特な雰囲気のある山である。

鹿島槍ヶ岳

その優美な山容と高山植物コマクサ、コバイケウなどの群落など絵になる景色が印象的。

大峰山

修験道、信仰の山であることは知っていたが、行ってみると、ほとんどの人は白装束で登り、いたる所に講が建てた石碑が建てられて歴史を感じさせられる。大峰山寺の宿坊に泊まったが、そこでも講の人達がお勤めをしていた。翌朝、そこから眺めたご来光は見事で忘れられない。山の自然がおのずと導く大いなるものへの畏敬が信仰に結び付くことが理解される気がした。山上ヶ岳から弥山小屋までの奥駈道は長く、最後はへとへとになってようやく小屋にたどり着くことが出来た。体力の衰えを実感して、今回をもって息子との山旅を終えることに決断した次第である。翌日、八経ヶ岳を越えて天川村に降りる、これまた長い下り道の途中でスマホを落とすアクシデントまでやってしまった。ほとんど人の通らない道だが、幸いにも後を歩いた人がいて警察に届けてくれたお蔭で後日無事スマホは手元に残った。息

子との最後の山旅は大変苦勞をした山ではあるが、信仰の山を体験させてくれ、幸運をもたらしてくれた山でであった。



大峰山系最高峰・八経ヶ岳にて
(2022. 8. 1)

終わりに

ふとしたことから、息子との8年間にも及ぶ山旅を経験することが出来た。改めて息子にいろいろな意味で感謝したい。これらの山行はその時々多くの貴重な体験を与えてくれただけでなく、この文章を書くために再度記録やアルバムを振り返って思うように、何時までも貴重な思い出として幸せ感を与えてくれる財産でもあるのである。また、この歳で山旅が出来た身体・環境へも感謝したい。人生は素晴らしい。もろもろに感謝したい。

息子（佐藤 誠）との8年の山旅記録				
年	月日	旅程	登山名	行程
2014	4/26 4/30	4泊5日	屋久島・宮之浦岳	4/26JR鹿児島中央→屋久島安房民泊、4/27淀川口発、新高塚小屋泊、4/28縄文杉経由荒川口、安房民泊、4/29宮之浦港発、指宿温泉「吟松」泊、4/30指宿→知覧特攻平和会館→JR鹿児島中央→金沢
	8/14 8/16	2泊3日	仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳	8/14JR身延→北沢峠・こもれび山荘泊、8/15仙丈ヶ岳、北沢峠・仙水小屋泊豪雨、8/16甲斐駒ヶ岳、広河原→奈良田→甲府→金沢
2015	7/18 7/20	2泊3日	白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）	7/18JR甲府→広河原、白根御池小屋泊、7/19北岳、農取小屋泊、7/20農鳥岳、奈良田温泉→広河原→JR甲府→長野→金沢
	9/19 9/21	2泊3日	鳳凰三山（薬師岳、観音岳、地藏岳）	9/19東京息子宅泊→9/20甲府→夜叉神峠、南御室小屋泊、9/20鳳凰三山、青木鉱泉→JR荏碓→松本→長野→金沢
2016	8/10 8/12	2泊3日	燕岳、大天井岳、蝶ヶ岳	8/10JR穂高→中房温泉口、燕山荘泊、燕岳往復8/11大天井岳、常念小屋泊、18/12常念岳、蝶ヶ岳、徳沢、上高地→JR松本→長野→金沢
2017	7/12 7/16	4泊5日	飯豊連峰	7/12JR新潟→JR中条→奥胎内ヒュッテ泊、7/13豪雨、登山口、頼母木小屋泊、7/14北股岳、御西小屋泊、7/15大日岳往復、飯豊山、三国小屋泊、7/16地藏山、川入→「いいでの湯」→JR山都→新津→妙高高原→金沢
2019	8/12 8/15	3泊4日	朝日連峰	8/12JR新潟→JR鶴岡→大鳥口・朝日旅館泊、8/13泡滝ダム、以東小屋泊、8/14寒江山、竜門山、西朝日岳、大朝日小屋泊、8/15大朝日岳往復、小朝日岳、朝日鉱泉→JR左沢→山形→大宮→金沢
2020	8/2 8/3	1泊2日	御嶽山	8/2JR木曽福島→御嶽ロープウェイ、剣ヶ峰、慰霊碑参拝、二ノ池ヒュッテ泊、8/3剣ヶ峰ご来光往復、摩利支天往復、ロープウェイ→JR木曽福島→長野→金沢
2021	7/22 7/24	2泊3日	鹿島槍ヶ岳	7/22JR長野→扇沢、種池山荘泊、7/23爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳南峰・北峰、冷池山荘泊、7/24爺ヶ岳、扇沢→JR長野→金沢
2022	7/30 8/2	3泊4日	大峰山、大台ヶ原	7/30近鉄柏原神宮前→洞川温泉、大峰山寺宿坊桜本坊泊、7/31大普賢岳、行者還小屋、弥山小屋泊、8/1八経ヶ岳、川合、柏原神宮前、ホテル泊、8/2樫原神宮前→BS大台ヶ原、日出ヶ岳、周回、ビジターセンター、BS大台ヶ原→樫原神宮前→京都→金沢

六甲・森づくりボランティア ・フォレスター松寿

8期 篠島益夫

フォレスター松寿の成り立ち

私が所属する退職者OB会である松寿会では2009年10月に国交省近畿地方整備局六甲砂防事務所が阪神大震災後に進める「六甲山系グリーンベルト整備事業」に市民ボランティアとして参加を決めました。しかし、その推進役となる代表世話役や世話役は決めておらず登山や山作業に経験のある私が代表を引き受ける羽目になり、一緒にやってくれそうなメンバーに声を掛けて世話役3名を確保、砂防事務所から「森の世話人認定書」を受け取り、活動準備に入りました。

活動地は砂防事務所の事業対象エリアから選ぶのですが、阪神間の参加者を想定して鉄道駅から活動地まで歩いて行ける昔は浜から有馬温泉まで魚を運んだとされる「魚屋道（ととや道）沿いの6ha余りの斜面地」を私と世話役と砂防事務所で決めました。

神戸市東灘区森北町の上部の標高200～350mの尾根筋ルート of 東西の斜面地です。この道は別に谷筋ルートがあり、選んだ尾根筋ルートは当時ほとんど活用されず、背丈の倍もあるネザサとニセアカシア大木の混交林となっており道も不明瞭で薄暗い斜面崩壊の恐れのある山林でした。このような植生を落葉広葉樹の森に切り替える為に開伐～植樹～育樹作業を繰り返すというボランティア活動です。

目的は六甲山南斜面の防災の森づくりですが、発足に当たり「最低20年間の世代を繋いだ活動を見据えて始めよう」という合意がありました。

活動開始15年が目前となった今日では開始当初の松寿会所属の会員が加齢と共に減少して、地元住民・女性・学生の参加が増え、その中から世話役を引き受けてくれる方も増える一方、活動参加者の平均年齢が当初に比べて大幅に若返り、運営面でも新しいアイデアが溢れるようになり、頼もしい限りです。当初の20年間の活動継続の合意は最近では40年という声が若手から聞こえています。

2009年12月が初回活動でしたが、その時の参加メンバーで現在も活動の常連は私と金大出身で1年先輩の蓮井氏だけになってきました。代わ

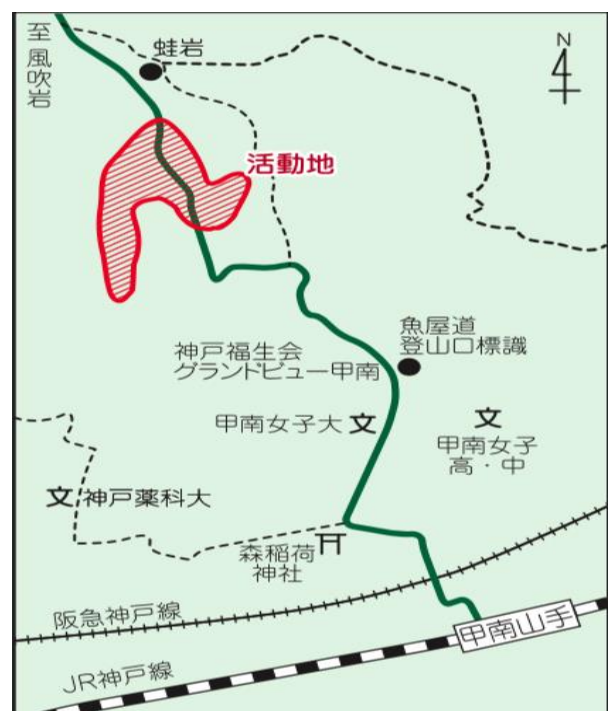
って若手や女性が増えて活動を支えてくれています。代表世話役も初代の私は活動を軌道に乗せる時期でもあり5年間担当しましたが、その後は代を重ねて現在は6代目、活動開始時の私よりも若い永井氏が代表を務め、広い人脈と活動資金の確保策や関連団体との交流でフォレスター松寿を格上げしてくれています。



上・写真（2010年1月）

活動初期の開伐作業：鎌・刈込鋏・鋸などの活動道具は全て砂防事務所からの借り物。現在はエンジン式草刈り機・電動式草刈り機など10台・チェーンソー1台・その他の作業道具も全て自前。チェック模様上着の作業者は篠島。

下・地図 活動地と周辺の略図：JR甲南山手駅から活動地まで徒歩40分、登山口付近には活動基地となっている機材倉庫がある。



六甲山グリーンベルト整備事業とは

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災では住居や都市インフラの大被害が報道の中心でしたが六甲山系でも1000ヶ所余りに及ぶ崩壊が発生しました。今後の風水害による更なる災害発生も危惧される事態に復旧作業を急ぐと共に、長期視点では六甲山地に一連の樹林帯（グリーンベルト）を守り育て、土砂災害に対する安全性を高め、緑豊かな都市山地としての環境と景観を作り出そうと各方面からの提言を受けた懇談会と国交省六甲砂防事務所により今後の六甲山地の整備方針が纏められました。

この「六甲山系グリーンベルト整備基本方針」に基づいて、国立公園部分を除く整備対象エリアが定められました。

エリアは神戸市須磨区鉢伏山から宝塚市岩倉山までの80ヶ所余りですが、これを国費だけではなく、ボランティア活動で進める事となりました。スタートは市民ボランティアと企業ボランティアの募集から始まり、現在では約50団体が参加してそれぞれの担当エリアで活動しています。

フォレスター松寿も2009年10月に参加、活動地での作業開始は同年12月12日が第一回目の活動でした。

活動の支援者（人・もの・かね）

先ず活動参加する「人の確保」ですが、ここで苦しみ翌年2010年の毎月の定例活動にも10名以上の参加を見たのは2回だけでその他は1桁の参加にとどまりました。しかし、人づての募集努力で2011年からは毎月例会では2桁以上の活動参加が安定しました。その後は活動地周辺の大学（甲南女子大・神戸薬科大・甲南大・関西学院大）に絞ったPRや東灘区役所の活動募集支援などから大学、地域住民、地元職域からの現役社員や女性の参加が増え、スタート時のOB会中心の参加者の構成が急速に変化してゆきました。これは各企業のボランティア参加推奨策や大学生の継続参加が単位認定になる等の想定外の社会変化もプラスしたのでしょう。

次は「もの&かね」ですが年会費1000円では活動に伴う傷害保険の付保で消えてしまうので、当初の2年足らずの活動期間は砂防事務所からの借用道具のみでした。しかし、2011年には補助申請していた企業からの支援金確保が決まり、日本

緑化機構などからの補助金確保が続くようになると自前の道具の購入が可能に、この資金確保は申請する相手こそ毎年増えるが、手分けして多数の補助申請作業を継続しています。このような資金確保については現在に至るも変わりませんが、やれば出来ます。しかし、補助金を受けると正確な活動や使途報告と会の決算報告が煩雑で、これは会計処理にたけたメンバーが引き受けて、今はその後任者に引き継がれています。

自前の道具が増えると、活動時にはこれを取り出し、活動を終わると道具を保管する場所が必要になります。此処で注目したのは作業の登山口（ととや道の入口）に大規模な老健施設があり、私がダメもとで飛び込んで施設長に面談、活動主旨説明の上、道具保管場所の提供を申し入れたところ、活動主旨に賛意を頂くと共に施設内での保管場所を決めて頂く事に、これが始まりで現在では施設内ではなく、同施設の敷地内に用地を借りて2棟の大型収納物置を設置させてもらっています。無料で提供頂いて我々の作業準備場所と機材保管ができています。

登山口まで僅か50mという立地に活動拠点を得た事はフォレスター松寿の今日に至る大きな成果要因です。現在では自前の倉庫や作業準備基地のごとく利用していますが、この場所の無料提供者である社会福祉法人神戸福生会への感謝を忘れないよう、昨年からの老健施設の正面アプローチエリアの剪定や草払いは当会に任せて頂くよう申し入れ、了解のもとに当会の作業前後に整備を続けています。無縁だった双方にこんな絆が生まれるとは感謝と共に偶然の縁に驚くばかりです。我々の活動が15年で此処まで拡張したのは全く、活動参加者やこれらの人々のお陰です。

下・写真 活動地・集合写真(2022年3月)



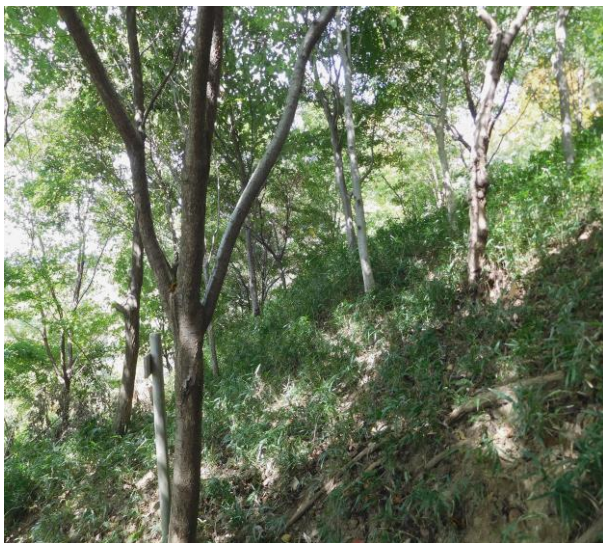
これまでの活動の成果

2009 年 12 月～2023 年 3 月までの活動成果

- ① 活動回数 延 169 回 (2023 年 3 月現在)
- ② 活動参加者 延 3744 人 (2023 年 3 月現在)
- ③ 植樹本数 1247 本 (2023 年 3 月現在)
- ④ 正会員 41 名 (2023 年 10 月現在)
- ⑤ 決算 毎年度 3 月



上の写真・植樹に取り組む女性チーム (2022 年 3 月)



上の写真・2011 年 3 月植樹の現在 (森らしくなった)



大臣表彰 (2017 年 6 月・於金沢市・陛下御列席)



『やまざと』近年号では、毎回、外国の山歩きなどを紹介しておりました。

今年もそのつもりが、写真を含めての纏める時間が取れず、講演要旨での紹介に留めました。

第58回 雲南懇話会 講演配布資料

2023年11月19日(日曜) 講演会 13～16時40分、茶話(懇親)会 17～19時

JICA(国際協力機構)市ヶ谷ビル・国際会議場。地図は、<http://urx.blue/V83y>

中国南部貴州省の少数民族の人たちとその生活 - 2019年の招待撮影行

長岡 正利

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、
標高1000m前後の、雲貴高原^{うんき}と呼ばれる起伏に富んだ山地になっています。

貴州省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカルスト地帯(中国南方カルスト)となっており、一部は世界遺産に登録されています。大きな平地がないことから、「地に三里の平地無し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さはないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったがゆえに、「人に三銭の金無し」。

すばらしい自然に恵まれ、今は、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。



(中国「貴州省」の位置)



貴州省の省都・貴陽市には、明の萬曆帝の時代に、「科挙」合格者が出ることを祈念した高秀楼が現存。



市街地から離れた農山村にも、突然に高層ビル群が出現。



山間部が多く、農耕地の殆どは見事に作られた棚田。(日本でも、むかし、よく見た風景。)



少数民族「苗(ミャオ)族」の一聚落。下写真の「黔东南苗族侗族自治州雷山縣郎德苗寨」で。

貴州省の人口は約3856万人で、漢族が64%(約2637万人)。少数民族で多いのは苗^{みやう}族463万人で、以下、布依族^{ふい}308万人、侗族^{とん}193万人と続きます。省面積の1/2以上が少数民族の自治区域となっています。〔以上の統計データの出典は、2022年・中文版「維基百科」など。〕

秘境の名の高い貴州ですが、省都・貴陽は昆明などからの全国高速鉄道網に組み込まれ、全国土に広がる五縦七横の国家級高速道路のほか、省級の高速道もあって、小規模聚落にも舗装道路が通じています。

ここでは、省都・貴陽市や古都鎮遠などに加えて、6つ少数民族地の人たちと、その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落(寨; 村)が違えば、人々の装いなどは違うのが普通です。下は、苗族の「郎德」村にての。



村の入り口で、歓迎の蘆笙演奏。(貴州省の「郎德苗寨」で。)



広場の中央での蘆笙。重低音の大笙から、旋律演奏の小型まで。昔が想われる懐かしいメロディの。



蘆笙を囲み、終出での旋廻。



村へ入る前のお酒でのお出迎え

【参考資料】「貴州省日本観光センター」ホームページ(邦文版)；綺麗な写真もご覧になれます。

中文版Wikipedia(維基百科)の「貴州省」と、Web「人民網」中文版トップから→「地方」→「黔」→「貴州省」

2015年ネパール大地震でのランタン谷氷河崩壊被災地の現況と観光地化の進展

— 死者不明者約350人のこの地は、被災履歴から、住むべき地ではなかった —

長岡 正利

ランタン谷は、1949年に英国人・ティルマンが訪れて「世界で最も美しい谷」と称賛したことで知られています。

「ランタンヒマール」と言われるこの地は、首都カトマンズから近い北方に位置し、ランタン国立公園の一部となっています。

谷沿いには、5000～6000m峰が連なり、最高峰はランタン・リルン(標高7245m: 1961(S36)年に大阪市立大学山岳会の3人が遭難死、1978年に同会が執念の初登頂を。)

演者は、2007年8月(モンスーンの最中)と、今年の春4月に、この地を訪問しました。その16年を隔てての、驚くべき大変貌(ロッジなどの大增築)と、2015年ネパール大地震での山頂下のランタン村の被災状況及び復興の現況を、200枚程の写真で紹介します。



南東側から見た、ランタン・リルン頂上



16年前は深い針葉樹林中に1軒の「ラマホテル」のみだったが、今や、登山道の両側に数軒のロッジが林立して、大賑わい。

注: その名称は、谷奥のキャンジュン・ゴンパ(チベット仏教のお寺)に行くチベット仏教僧がここを宿営地とした故の地名で、「ホテル」ではない。

2007年時点のランタン村と、現在の被災地を、同じ視点から。上写真(モンスーンの雨天下)をよく見ますと、急斜面に3筋の細流があり、現在(右上写真)では、植生が絶て剥ぎ取られて岩壁となりながらも、その3筋の細流位置は、岩壁を刻む溝として見えています。

上述の地震では、山頂直下の懸垂氷河の崩壊掃流・爆風で、ランタン村全域が潰滅したもので、巨大な岩壁の下にあった3階建てロッジが1軒だけ残りました。崩壊の直撃のほか、爆風による家屋倒壊、対岸斜面の樹林地にまで被害が及びました。なお、1970年のドイツの航測地形図からは、死者が多かった被災地域(平坦で住みやすい)には、その頃までは家がなかったことが明瞭です。

(日本でも、その様な事例(過去の伝承から「住むべき地ではない」地が住家連坦となって、大災害)は随所。)



ランタン谷奥に見えてくる
美しいヒマワリ装のガンチェン 6387m



谷の南側の山々



飛雪のランタンリルンと満開の石楠花。様々な花色。神猿、ハスマンラングーも。



日本の春にも見られそうな、山野の花も。順に、エニシダ・ヘビイチゴ・サクラソウ・アヤメ・ネコヤナギの、各仲間(種名不詳)

『やまざと』近年号では、毎回、外国の山歩きなどを紹介しておりました。

今年もそのつもりが、写真を含めての纏める時間が取れず、講演要旨での紹介に留めました。

第58回 雲南懇話会 講演配布資料

2023年11月19日(日曜) 講演会 13～16時40分、茶話(懇親)会 17～19時

JICA(国際協力機構)市ヶ谷ビル・国際会議場。地図は、<http://urx.blue/V83y>

中国南部貴州省の少数民族の人たちとその生活 - 2019年の招待撮影行

長岡 正利

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、
標高1000m前後の、雲貴高原と呼ばれる起伏に富んだ山地になっ
ています。

貴州省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカル
スト地帯(中国南方カルスト)となっており、一部は世界遺産に登
録されています。大きな平地がないことから、「地に三里の平地無
し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さは
ないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に
三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったがゆえに、
「人に三銭の金無し」。

すばらしい自然に恵まれ、今は、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。



(中国「貴州省」の位置)



貴州省の省都・貴陽市には、明の
萬曆帝の時代に、「科挙」合格者が
出ることを祈念した高秀楼が現存。



市街地から離れた農山村にも、
突然に高層ビル群が出現。



山間部が多く、農耕地の殆どは
見事に作られた棚田。
(日本でも、むかし、よく見た風景。)



少数民族「苗(ミャオ)族」の一聚落。
下写真の「黔东南苗族侗族自治州
雷山県 郎德苗寨」で。

貴州省の人口は約3856万人で、漢族が64%(約2637万人)。少数民族で多いのは苗族463万人で、
以下、布依族308万人、侗族193万人と続きます。省面積の1/2以上が少数民族の自治区域となっ
ています。〔以上の統計データの出典は、2022年・中文版「維基百科」など。〕

秘境の名の高い貴州ですが、省都・貴陽は昆明などからの全国高速鉄道網に組み込まれ、全国土に
広がる五縦七横の国家級高速道路のほか、省級の高速道もあって、小規模聚落にも舗装道路が通じ
ています。

ここでは、省都・貴陽市や古都鎮遠などに加えて、6つ少数民族地の人たちと、
その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落(寨;村)が違えば、
人々の装いなどは違うのが普通です。下は、苗族の「郎德」村にての。



村の入り口で、歓迎の蘆笙演奏。
(貴州省の「郎德苗寨」で。)



広場の中央での蘆笙。重低音の
大笙から、旋律演奏の小型まで。
昔が想われる懐かしいメロディの。



蘆笙を囲み、終出での旋廻。



村へ入る前のお酒でのお出迎え

【参考資料】「貴州省日本観光センター」ホームページ(邦文版)；綺麗な写真もご覧になれます。

中文版Wikipedia(維基百科)の「貴州省」と、Web「人民網」中文版トップから→「地方」→「黔」→「貴州省」

2015年ネパール大地震でのランタン谷氷河崩壊被災地の現況と観光地化の進展

ー 死者不明者約350人のこの地は、被災履歴から、住むべき地ではなかった ー

長岡 正利

ランタン谷は、1949年に英国人・ティルマンが訪れて「世界で最も美しい谷」と称賛したことで知られています。

「ランタンヒマール」と言われるこの地は、首都カトマンズから近い北方に位置し、ランタン国立公園の一部となっています。

谷沿いには、5000～6000m峰が連なり、最高峰はランタン・リルン(標高7245m: 1961(S36)年に大阪市立大学山岳会の3人が遭難死、1978年に同会が執念の初登頂を。)

演者は、2007年8月(モンスーンの最中)と、今年の春4月に、この地を訪問しました。その16年を隔てての、驚くべき大変貌(ロッジなどの大增築)と、2015年ネパール大地震での山頂下のランタン村の被災状況及び復興の現況を、200枚程の写真で紹介します。



南東側から見た、ランタン・リルン頂上



16年前は深い針葉樹林中に1軒の「ラマホテル」のみだったが、今や、登山道の両側に数軒のロッジが林立して、大賑わい。

注: その名称は、谷奥のキャンジュン・ゴンパ(チベット仏教のお寺)に行くチベット仏教僧がここを宿营地とした故の地名で、「ホテル」ではない。

2007年時点のランタン村と、現在の被災地を、同じ視点から。上写真(モンスーン期の雨天)をよく見ますと、急斜面に3筋の細流があり、現在(右上写真)では、植生が剥ぎ取られて岩壁となりながらも、その3筋の細流位置は、岩壁を刻む溝として見えています。

上述の地震では、山頂直下の懸垂氷河の崩壊掃流・爆風で、ランタン村全域が潰滅したもので、巨大な岩壁の下にあった3階建てロッジが1軒だけ残りました。崩壊の直撃のほか、爆風による家屋倒壊、対岸斜面の樹林地にまで被害が及びました。なお、1970年のドイツの航測地形図からは、死者が多かった被災地域(平坦で住みやすい)には、その頃までは家がなかったことが明瞭です。

(日本でも、その様な事例(過去の伝承から「住むべき地ではない」地が住家連坦となって、大災害)は随所。)



ランタン谷奥に見えてくる
美しいヒマワリ装のガンチェン 6387m



谷の南側の山々



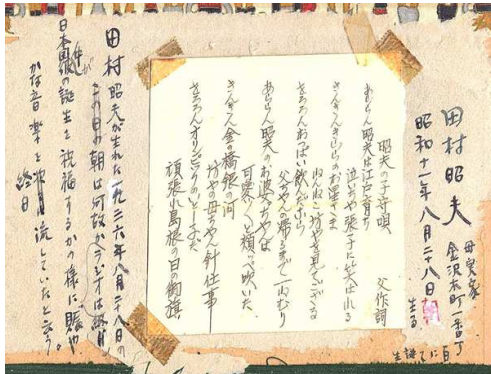
飛雪のランタンリルンと満開の石榴花。様々な花色。神猿、ハスマンラングーも。



日本の春にも見られそうな、山野の花も。順に、エニシダ・ヘビイチゴ・サクラソウ・アヤメ・ネコヤナギの、各仲間(種名不詳)

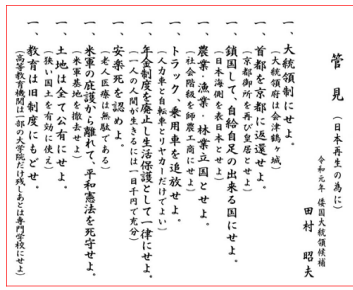
WV・3期の田村昭夫様(自称、ワングル0期)^{ゼロ}が、昨・2023年11月20日にお亡くなりになられました。また、一昨年秋には、同・鈴木 兵一様も。ともに、WV 創立にご盡力のお二人でした。

このページでは田村様についてを、続けて、右ページで鈴木様のことを紹介させていただきます。



(田村様アルバムより：田村様提供。)

田村様は、昭和11年に金沢市内で誕生。左のように、ご両親の愛を受けて幼少期を過ごされて金大へ入学。在学10年(休学の2年間を含む)で卒業。ほぼ自由人のようなお人でした。11期・加藤様の評、「訃報にビックリです。なんとなく、神農の如き不老長寿と思って」がまさにぴったりのお人でした。會津ご出身であったことから、會津と古い日本を偲ばれつつ、旧制高校の面影を愛し、四高(第四高等学校)卒と金大の一部OBで組織する月例「北の都会」ご常連でもありました。時に不調となられた際の「さようなら」賀状に驚かされ、或いは倭国大統領候補への出馬宣言などには、いつも愉しんだものです。



(「北の都会」にて涙を湛えつつ。)



(田村様「さようなら」2015年賀状と、倭国大統領出馬宣言。)

一度だけですが、田村様が本心を吐露なされ、涙を湛えつつのお説を拝聴しました。月例「北の都会」ですが、満座が静まりかえりました。金大生が、護國神社境内の清水博士(最後の枢密院議長)碑の前で、古式に則って諫死・憤死の自決をなした(2011年12月8日未明、右記事)ことのご紹介でした。上が、その際の田村様お姿。



(四高寮歌「南下軍之歌」碑前で。WV 田村・四十万・久富・長岡が碑を訪問。田村様が「南下軍之歌」を高唱しつつ、「超然太鼓」を。)

田村様は、會津藩歴代の筆頭家老・梁瀬家から出られた成一氏の作曲になる「南下軍之歌」を愛し、その楽譜を刻んだ歌碑建立に尽力なさいました。誰にも好まれて、お誘いも多々。一方では、どこまでもの包容力の奥様あったの田村様でもありました。しかし残念ながら、冒頭に述べたように、お位牌となられました。



田村さん、さようなら。(2016年河口湖で、4期清水様撮影。2017年ご自宅で。2023年5月、お位牌と お別れ時の奥様。)

(掲載写真で撮影者等のお名の無いものは、筆者の撮影です。)

(前編同様に、HP 上で拡大してご覧頂ければ、挿入図版の文字箇所も読み取れます。)

続けて、2021 年 11 月 9 日にご逝去の鈴木兵一様につきまして。

筆者は、前ページでの田村様とは、コロナ禍少し前までの 10 年間以上に亘る毎月、「北の都会」でお逢いしていましたが、鈴木様とは、その帰路だったかの、田村様同道での一度だけでした。

WV 現役時代には、WV 創立のお二人のことを耳にした記憶はありません。一方で、その当時から、部誌『Bergheim』の毎年号にあった「創立のモットー」のことは、よく目にしておりました。



(立山で創部のことを語る鈴木・田村様。翌 1959(S34)年 5 月末、大学祭休講利用の「奥能登一周徒歩旅行」。田村様アルバムより。)

OB となって随分の年が経って初めて、この、新入生にとっての、新時代への思いが伝わる「モットー」とは、どなたが？と。以前に田村様にお聞きしたところ、「俺にはあんな文才はない。兵一の作。」との由で、3 期・北様も同じようなお答えでした。

OB の諸氏には、どなたもが、「自身の頃が一番の」WV であったと思われます。筆者にとっては、犀川ダム上流に作られた倉谷ベルクハイム(BH)での日々や、3 月の春山(雪山)合宿のことなどが。



(1966(S41)年晩秋、部員で溢れていた時代の BH。春の BH 小屋作業の賑わいと残雪の高三郎へ、2007 年と 2004 年。)

幸いに、鈴木様の壮年期の写真もありました。最後の右写真は、老境のお二人ですが、何をお話しであったのか？ 同行の方々にもお聞きはしたのですが、7 年前のことゆえ、何も判りませんでした。田村様・鈴木様とも、WV とともに、幸せな一生をお過ごしであった、と、筆者は思います。ご冥福を。



(2008 年 WV50 年の鈴木様、7 期 四十万様撮影。両隣りに都内・田村様も。)

冒頭で既述のように、筆者には、鈴木様についての情報は無きに等しく、そこで、3 期の田村・北・熊松(竹谷)・北野(加藤)、4 期の佐藤・清水、7 期の村田・四十万、15 期の舟田(西村)様に、写真や、色々お話しもお伺いしました。しかし、ここにご紹介の内容についての責は、総て筆者にあります。

拙稿ページは、全部が筆者の編集です。以前から、投稿は個人 4 ページ、写真は 1 ページに 2 枚まで(その挿入編集に時間を要す故か?)となっておりました。以前からですが、編集の労の低減に資するようと、小生は、自身で編集して PDF で提出しておりました。それゆえに、規定とは関わりなく、写真をたくさん掲出してあります。

先の WV65 年総会では、「現行の冊子形式は 65 周年記念号 vol.38 をもって終了」が了解されましたが、本誌での仲村様による総会報告中にもありますように、小生から、「WV-HP に掲載される本誌 vol.39 以降での、皆様の個人投稿については、原稿とりまとめ編集(挿入写真の枚数制限なし)から PDF 化までを、今後 5 年間は責任を持って協力します。(要旨)」と申し上げ、「拍手を以て可決(仲村様お書き)」されております。それゆえ、今後の何年かは、その様に致します。

「老人問題という言い方はおかしい…人間が年をとるのは正常なことですよ」小説『橋のない川』の著者住井すゑは、「老人問題をどうお考えですか」のインタビューに対し、まずそう答えたそうです。

これを「今週のことば」として取り上げた哲学者藤田正勝氏は、「利益や効率だけで物事の、そして人間の価値を測ろうとする現代社会が『古い』を『老人問題』というように『問題』にしてしまっている」…と続けていました。

そんな本人の気丈はさておき、手のかかる存在となり、周囲には「問題」となる…は、自覚した方がベター。感謝の心を持ち、「ありがとう」を言える修業を積むのがベストです。

自分自身には「大問題」です。たかが「山遊び」であっても「古い」との擦り合わせを考えないわけにはいかないからです。落ちていく体力、残り時間、満足度…。いつまで、どこまで？…。



《ホテイラン ハヶ岳 2017. 6. 3》

「擦り合わせ」として、百名山のあたりから、ツアー利用が普通になりました。「自分で行ける山」も、「自分で探す山」にも限界があります。ツアーが出て、そこから日程とコース難度を見て、選択する…これが、快適、そして現実的で、安全。

山へ行くことで健康維持ができ、それがや

りたいから、日常にも健康維持意識が入り、メリハリある生活が出来る…そんな志向の「現在進行形の山仲間」とも出会えます。

中高年登山者層は、日本の山業界にとって、是非繋いでおきたい大お客様のようなようです。

「新日本百名山」「百低山」「島山百選」、さらには「シニア百名山」と、次々、難度を下げた行先が提示されるようになってきました。

地元発ツアーにも、それが反映され、成立するようになっていきます。速くて、辛くて、情けなくて…では、参加を躊躇してしまいますから。コロナ禍を経て、ますます企画力が勝負なのです。

時には姦しすぎる（圧倒的に女性が多いため）こともあるのですが、「生きている時間を、健康で楽しく過ごしたい」人達が申し込んでいます。そこで知り合った、足のレベルが同じ人達との、誘い合っのゆっくり山旅の機会も生まれています。



《ウルップソウと白馬岳 2023. 7. 4》

この夏は、そんな流れで「白馬大池に連泊して白馬岳をピストン」、「鹿島槍を2泊3日」のビッグイベントをやりました。晴天にも花にも恵まれ、これまでにない「山をじっくり味わう」がやれました。時間なら余っている方です。のろのろでもいい。何度目でもいい！相応の設定をし、その程度には動ける体維持を日常にやれば、人生全体を豊かにしていけます（…と、願う）。

さらには、毎月、某月刊機関誌に山原稿を提出の機会がある…も、励みとなることなのです。調べ直しや、写真の吟味にも熱が入ります。これがけっこう楽しい「机上登山」となり、ついついネットサーフィンにハマり込むこともあります。

コロナ禍のせいで、アーカイブでも可になりましたが、この振り返りがまた楽しい…。どうにか老化に順応出来てきたようです。



《鹿島槍ヶ岳 2023. 8. 1》

- 11 月号…夜叉ヶ池山、冠山
- 12 月号…八ヶ岳の中山峠
- 1 月号…マレーシアのキナバル山
- 2 月号…安芸の宮島の弥山
- 3 月号…房総半島の鋸山・富山・伊予ヶ岳
- 4 月号…舟伏山
- 5 月号…対馬の白嶽
- 6 月号…阿蘇くじゅう国立公園 由布岳
- 7 月号…帝釈山・田代山
- 8 月号…幌尻岳・戸蔭別岳
- 9 月号…空木岳・南駒ヶ岳・越百山
- 10 月号…恐山の大尽山

「夜叉ヶ池山、冠山」…まだまだコロナの最中に、マイカーでの移動時間が長いのが、相対的に接触時間を減らすにあたる…の解釈をして、30 年ぶりに登りました。かたや山頂の幽玄な池、かたや三百名山に入る岩峰で、紅葉時期が特にお薦めです。越美山地の両山は、かつて幼児をかかえて出辛い私を、優しい山友が、

楽かつ満足できる山として誘ってくれた山です。その後、韋駄天のごときが禍して半月板を損傷したり、脳梗塞をおこしたりで、彼の方が先にリタイア。ろくにお返しができていないことに胸が痛みます。

「中山峠」…岩崎元郎氏の「地球を遠足」シリーズに参加すると、親しくお便りが届くようになります。この時は、八ヶ岳のしらびそ小屋でのクリスマス会へのお誘いでした。通年営業小屋の多い八ヶ岳では、高校山岳部が雪山合宿に、小学生が雪山遠足に来ていました。営業小屋があつて、晴天率も高ければ「雪を楽しむ」がやれます。かえって、こんなふうでは、雪雷や、除雪、重い雪による閉塞感は、判らない！と思ったことでした。

「キナバル山」…「初めての海外登山」「初めての 4000m 峰」として、お勧めなのが、マレーシア連邦のキナバル山です。貧国とばかり思っていたので、適宜配置されたシェルターや、快適なレストハウスに驚愕。巨人が練り挙げたような、異様な頂上岩峰群や、サウスピークにも、日本にはありえない…を思いました。日常は大節約、旦那に不自由をさせても、海外には出るべし。



《キナバル山のドンキーイヤー 2008. 4. 15》

「弥山」…3 種類は出ている「百低山」本のどれにも載っている、厳島神社の裏山です。大鳥居は 3 年がかりの補修が終わったばかりであり、広島 G7 サミットを控えているというタ

イミグでした。なぜ安芸の宮島が世界遺産になったのか？が、判りました。熟年には熟年になってから楽しめばいい山がある…と、腑に落ちた山です。

「鋸山・富山・伊予ヶ岳」…かつて東京のツアー会社の忘年山行のうちの 하나가、房総の鋸岳と戦跡巡りでした。金沢箱入り女は、東京湾越しに富士山が見える…程度の認識でいて、本土決戦の頃の房総の戦略的意味を知らず、平和ボケを恥じたものです。その分、鋸山が吉田類の「にっぽん百低山」放映第一号になった時は、そうでしょ！と、何故か優越感。この5月に伊豆諸島からの帰りの船便で見た時も感激。また、県美での川瀬巴水展にて、「石積む舟（房州）」があそこだとほくそ笑んでしまいました。早春の三山ツアーとなった今年は、「ラピュタの城」の喩えにアニメ全盛時代を思い、富山用には、南総里見八犬伝を読み直し、角川映画の里見八犬伝も楽しみました。336mでも「房総のmatterホルン」の見栄張りには、笑ってしまいましたが、早春がベストシーズンになる山々でした。思い出同士が繋がりで多層化して、満足が増殖していくのが、熟年です。

「舟伏山」…イワザクラを見に、集中して行った時期があります。掲載に際し確認すると、林道崩壊で行けなくなっていました。最近の集中豪雨と過疎化により、修復されない林道や、廃止されたゴンドラなどが増えました。そのため、脚力を越えてしまい登れなくなった山は、白木峰や鋸崎山など…。こういうのは「山が逃げた」です。

「白嶽」…時間も財布も、昔なら、対馬の山へなんて考えもしませんでした。島とは、まさに、海から突き出た「山」であり、海の眺めも楽しめます。白村江の戦いや元寇、朝鮮出兵や、朝鮮通信使に日露戦争を、現場の遺構で復習も。ウクライナ侵攻が始まって3ヶ月の頃でしたので、プーチンと秀吉の野望が重なってしま

いました。「島山＝山＋観光＋地元グルメ」は、中高年向きです。



《イワザクラ 舟伏山 2013. 4. 22》

「平治岳・大船山・由布岳」…「山と花」をテーマとするからには、6月に取り上げないわけにはいかないのが、九重のミヤマキリシマです。百名山ツアーでは久住山をかすめるのみだったので、法華院温泉泊で、再訪もしました。執筆時にはちょうど西田省三の取材映像が流れており、久弥が九重共和国と称した火山群を、地図を広げて確認。ミヤマキリシマの命名が「らんまん」の牧野富太郎であったことも、ジャストタイミング。そんなふうにおめでたく楽しみました。



《ミヤマキリシマ 平治岳 2014. 6. 8》

「帝釈山・田代山」…オサバグサは、あまり見掛けない植物ですが、帝釈山地には繁茂していて有名です。山頂に広がる湿原のある田代山とのセット縦走が楽しいです。

「幌尻岳・戸蔦別岳」…15 回ほど渡渉の必要な山として、日本百名山中、最難関ともされている山です。日高山脈で福岡大ワンゲルがヒグマに襲撃されたのは1970年7月のこと…。つまり、私が KUWV に入った年でした。この時勧められたハッカ油を以後は虫よけに使い、その度幌尻岳までを思い出すのは、めでたいことです。

「空木岳・南駒ヶ岳・越百山」…2010年8月に、空木岳で、日本百名山を完登としました。その時は木曾駒からの縦走。2年後には、夫を誘って空木岳から越百山への南下をやりました。木曾殿山荘が、そこでの完登者を祝ってくれるとのことでの選択でしたがちょうど、予約必須に対しての、炎上騒ぎがおきていました。コロナ禍を経て今はどこも完全予約が常識になりました。

「恐山の大尽山」…各県から一つは入れて、中高年向きとした岩崎元郎選定の「新日本百名山」になっている低山。山自体の魅力はなく、あくまで霊場恐山の迫力あつての山でした。でも、「新百名山」入りをしたからツアーが出て、ご縁が…。



《恐山の大尽山 2022. 9. 4》

ようやく、世界の山旅のカタログも復活してきました。高額になり、ツアーリーダー達は、新顔になっていました。私の「老化してしまう！」の悪あがき以上の嵐が、ツアーリーダーという生き方を選んだ人達には吹き荒れたの

でしょう。

懐かしのネパールを開いてみると、かつてシェルパのサーダー達は「上がり」のようにロッジを構え、ヒマラヤン・ドリームを達成していたものですが、コロナ禍後は欧米ビッグ資本が取って代わった気配です。

さて、2023 年は、何より、朝ドラで「らんまん」が放映された年といえます。関連出版が溢れ、フィクションもノンフィクションも楽しめました。高知花紀行に参加し、横倉山にも登ってきました。



《ヤマトグサ 伊吹山 2010. 5. 22》

敬老の日の発表では、「80 歳以上が 10 人に一人」とか。もう、敬うどころではありません。施設に空きはなく、介護人はいない…。山ランクを下げつつ好奇心を繋いで、健康寿命を伸ばしていなければならないのです。

94 歳まで生き、周囲には「困ったちゃん」だったらしい牧野富太郎…。旺盛な好奇心と、フィールドワークは、愛妻壽衛子没後のさらに 29 年を支えました。

そんな手本にあやかり、さらにゆっくりと、「山遊びと花探しを楽しむ」見本くらいは、続けていきたいものです

【2023 年 5 月 7 日～11 日】

ホールン＜東インド会社時代に栄えた港町＞、アムステルダム（国立美術館、ゴッホ美術館、アンネ・フランクの家、海洋博物館）、デルフト＜フェルメールが生涯を過ごした街＞、ハーグ（マウリッツハイス美術館、デン・ハーグ美術館）、ライデン（シーボルトハウス、ライデン大学）

コロナが怖くて、2020 年 3 月以降、家族以外と外食をしたことがなかった。人が集まるところへは出かけなかった。自宅には誰も上げなかった。公共機関の利用もやめ、ジパング倶楽部も敬老パス（地下鉄・バス乗り放題）も更新しなかった。

そんな緊急事態宣言下の我家に、「2022 年 11 月、関西の箕面で 17 期・18 期合同同期会（幹事：17 期小間君、18 期大西君）開催」との案内が届いた。あの大江戸温泉物語・箕面観光ホテルだ。金曜の夜に宴会、土曜に箕面大滝まで散策とのこと。コロナが終息していないのに、なんでこの時期にやるのだと思った。宴会で酒がはいれば酔っぱらってマスクなしで騒ぐのは目に見えていた。後で聞いたら、実際そうだったという。同期会は三浦半島・城ヶ島（2019 年 11 月）以来の開催なので行きたいのは山々だったが躊躇なく「欠席」の返事をした。しかし人恋しさに我慢できず、土曜朝、始発の新幹線に乗りホテルへ駆けつけた。17 名が来ていた。3 年ぶりに仲間に会えた。箕面大滝への散策で互いの近況などを伝えあった。宴会には出られなかったけど、みんなの元気な姿を見ることができて素直にうれしかった。

2023 年 5 月、オランダへ行った。首都アムステルダムで開催されていた史上最大規模の《フェルメール展》（2023 年 2 月～6 月）を観るためだ。17 世紀に活躍したオランダの画家ヨハネス・フェルメールは寡作で、真贋の結論の出ていない作品を含めて世界中で 37 点しか残っていない。今回はその内の 28 点が、アムステルダム国立美術館に集まるというのだ。これはフェルメールファンとしては行くしかない。巣ごもりはやめた。コロナなど気にしている場合ではない。



【アムステルダム国立美術館】

オランダのスキポール空港に降り立ったら、誰もマスクをしていなかった。もうヤケクソでマスクを外した。オランダではずっとマスクなしで過ごしたが、幸い何事もなく帰国できた。5 類移行（5 月 8 日）後だったので、日本の検疫もフリーパスだった。

帰国後は、憑き物が落ちたかのように人と会い、外食をするようになった。

1. 金沢大学とオランダ

金沢大学はオランダとご縁があるのですね。2012 年の金沢大学創基 150 年記念式典の学長式辞で「1999 年に金沢大学が創立 50 周年を迎えた折、（中略）金沢大学の始まりについて検討を加え、文久 2（1862）年に設立された加賀藩彦三種痘所を本学の淵源と定めました」とあり、金沢大学のルーツはこの種痘所ということになった。

1870 年（明治 3）金沢医学館が開設され、翌年オランダ人スロイス（ライデン大学を経てユトレヒト陸軍軍医学校卒業）が医学館に着任する。幕末前後にユトレヒト陸軍軍医学校などの卒業生 10 名ほどが日本に招聘（お雇い外国人）され、各地で西洋近代医学を伝授した。

1869 年、明治政府はドイツ医学の導入を正式決定する。しかしオランダ医が講義した金沢、長崎、新潟、岡山、熊本、千葉（千葉のみ派遣されていない）は医科大学に昇格〔旧六医大〕したので、オランダ医たちの努力は無駄ではなかった。

スロイスの奥方がカレー料理をふるまったとの記録がある。誰が食べたかは分からないが、オランダ語通詞や医学館関係者なのだろう。金沢で初めてカレーに出会った日本人たちだが、これは「金沢カレー」のルーツではないようだ。

ライデン大学（1575 年設立）はオランダ最古の大学だ。八十年戦争でスペイン軍の包囲網にライデン市民は最後まで抵抗した。この勲功に対し、ライデン市民がオラニエ公に望んだものは大学だった。当時、都市に大学があるということは大変名誉なことで、市民は税金免除という褒賞よりも大学設置を選んだのだ。ライデン大学には、後に世界で初めて日本学科が設置（1855 年）された。

ライデン大学は人文系が強いと言われている。金沢大学人間社会学域はライデン大学人文学部と交流協定を結んでいる。2022 年夏には、「金沢大学ライデン大学学生短期受け入れプログラム」でライデン大学の学生 15 名が金沢へ留学した。

ライデン大学のすぐそばにシーボルトハウスがあり、シーボルトが日本で収集したコレクションが展示されている。シーボルトハウス内には、金沢大学を含む〔国立六大学〕欧州事務所が設置されている。係の人に案内してもらった。2 部屋の内、1 室は長崎大学国際交流室、他の 1 室は会議室。各機関が共同で利用しているようだった。

八十年戦争時の要塞は市内唯一の高台で、見晴らしがいい。高さ 10m の土塁の上に、更に高さ 6m の石垣が環状（直径 40m）に取り囲み、要塞を形作っている。オランダは国土の 4 分の 1 が海拔 0m 以下にあり、どこまで行っても平らだ。今回の旅で登った唯一の山（丘）がライデン要塞だ。



【芭蕉の俳句（ライデン大学近くの建物）】

2. オランダ料理

アムステルダム初日は、東インド会社（VOC）

の遺構（本社建物や各種倉庫、計量所等）を訪ねる為、オランダ在住の W さんに、17 世紀オランダ黄金時代に栄えたホールン（アムステルダム北方の港町）などを案内してもらった。ホールンの港に面したホーフト塔（1532 年築造）でお昼にした。以前要塞だった建物は、石造りの佇まいが渋い。狭い階段を登ると 2 階がレストランだ。窓側の眺めの良い席に座った。僕は元祖クロケットのクロケット（写真手前）、W さんは好物のパンネクック（写真奥）を注文した。見た目はピザだが、直径 30cm の巨大なクレープだ。彼はナイフとフォークで上手に巻いて切り分けて食べていた。

W さんによればオランダの名物料理にはウナギの燻製があるのだとか！ ウナギは蒲焼に決まるとだろう。ひつまぶしのおいしさをオランダ人に教えてあげたい。



【クロケットとパンネクック（ホールン）】

一人旅は気ままでいいが困るのは夕食だ。朝食はホテルで、昼はカフェの軽食で済ませられる。でも夜レストランのテーブルで独り食事するのはどうにも落ち着かない。オランダ料理は想像していた以上においしかったが、旅先で割り勘する（go Dutch）相手がいないのは、なんとも味気ない。

3. ヨハネス・フェルメール

中学校の美術では、オランダを代表する画家はレンブラント（1606-1669）とファン・ゴッホで、フェルメールは見たことも聞いたこともなかった。いつから教科書に載るようになったのだろう。

フェルメール作品の魅力は何か：

1) キリスト教や欧州の歴史の知識がなくても楽しめる、2) 市井の人々の日常生活が題材になっていて親しみやすい、3) 思わず引き込まれてしまう

寡黙で静謐な世界、4) 光の魔術師と呼ばれる技量、5) 引算の美学と称される計算し尽くされた構図、6) 画中画などに込められた寓意を読み解く面白さ、7) 贋作事件や5回の盗難などの話題性

現存作品の少なさ(37作品)も特徴で、レンブラント(1500点?)やゴッホ(約2000点)に比べるとフェルメールは際立って少ない。

盗難が多いのはフェルメールの作品が小さいこともあろう。《牛乳を注ぐ女》(45.5x41cm)、《真珠の耳飾りの少女》(44.5x39cm)。特に《レースを編む女》(23.9x20.5cm)に至ってはA4サイズ以下で、上着に隠して持ち出せそう。アムステルダム国立美術館の「名誉の間」に鎮座するレンブラントの大作《夜警》(363x437cm)が、大きすぎて誰も盗めないのとは好対称だ。



【牛乳を注ぐ女 (アムステルダム国立美術館)】

17世紀黄金期のオランダでは市民が豊かな暮らしを享受し、各家庭にも絵がふつうに飾られていた。大半は残っていないが、この時期オランダ絵画は500万点以上描かれたという。オランダが経済的に衰退していくと共にフェルメールの名も忘れられていった。フランスで印象派が評価され始めた19世紀後半、庶民の生活を描いたオランダの風俗画が再発見・再評価されることになる。

フェルメールは、半貴石ラピスラズリーを使ったフェルメール・ブルーで有名だが、フェルメール・イエローもよく知られている。《手紙を書く女》《真珠の首飾り》《恋文》などでは、色鮮やかな黄色のガウンをまとった女性が描かれている。

《牛乳を注ぐ女》の衣装も、補色関係にある青と黄色が使われている。

4. デルフトの街

フェルメール(1632-1675)が生まれ、生涯を

過ごした街。かつて城壁に囲まれていた旧市街はわずか2km²、フェルメールは中心部のマルクト広場を起点に半径500mで転居・生活していた。

マルクト広場に近い運河沿いのホテルで2泊しフェルメールゆかりの場所を歩いた。デルフトは喧騒とは無縁の、とても落ち着いた街だった。

フェルメールの絵には静かな時間が流れている。でも実生活では14人の子沢山で、若くしてデルフトの画家組合の理事にも就任していた。

家業の宿屋兼居酒屋「メーヘレン亭」の経営もあり、多忙な日々を送っていたにちがいない。

絵が37点しか残っていないということは、子供たちがアトリエ部屋に乱入して完成した絵に落書きしたり、絵を破ってダメにしたりしたことが多々あったのではないかと考えてしまう。



【真珠の耳飾りの少女 (マリッハス美術館)】

フェルメール・センター〈デルフトの画家組合があった建物〉では全作品〈レプリカ〉を見ることができる。主要作品の構図の解説や実際のアトリエの再現など、フェルメールについて詳しく判りやすく展示されている。映像も流れている。スカーレット・ヨハンソン主演『真珠の耳飾りの少女』(2003年)だ。この映画がヒットし、それまで《青いターバンの少女》と言われていた作品が映画のタイトル通りに呼ばれるようになった。

5. ゴッホとフェルメール

筆まめのゴッホ(1853-1890)は、弟テオや画家の友人らとの間に膨大な手紙を遺している。謎だらけのフェルメールと異なり、ゴッホが「誰の絵を観てどう感じたか」を知ることができる。

<http://www.vangoghletters.org> [英文URL]
ゴッホはフェルメールの絵(《デルフトの眺望》や《青衣の女》等)を美術館で観ていた。

テオに宛てた中でフェルメールに言及した手紙は10通(1882-88年)ある。最後のフランス・アルルからの手紙(1888年9月付)では、補色関係にある青と黄色について、こう書いている。

「この自然は異常なまでに美しい。何もかも、どこもかしこも。空の丸天井はすばらしい青、太陽は薄い硫黄色の光を放射し、それがデルフトのフェルメールの絵のなかの、空色と黄色の組み合わせのように柔らかで魅力的だ。」〔二見史郎編訳『ファン・ゴッホの手紙』(2001年) p. 286〕



【黄色い家(ファン・ゴッホ美術館)】

ゴッホ美術館は国立美術館と違い、カジュアルな雰囲気だった。《馬鈴薯を食べる人々》《花咲くアーモンドの木の枝》などが間近に見られて楽しい。フェルメールやレンブラントは生前有名だったがゴッホは、ほぼ無名のまま生涯を終えた。

川上未映子は初期のエッセイの中で、ポップな大阪弁でゴッホへの熱い想いを語っている。『『そら頭はでかいです、世界がすこんと入ります』(2009年) 所収 pp. 96-100〕以下抜粋引用。

「私は、ゴッホにゆうたりたい。めっちゃゆうたりたい。(中略) 今ではあんたは巨匠とかゆわれてんねんで、(中略) あんたの絵は、ずっと残っていくで、すごいことやな、すごいなあ、よかったなあ、そやから自分は何も残せんかったとか、そんな風には、そんな風には思わんといてな(中略)、今はみんなあんたの絵をすきやよ、私はどうにかして、これを、それを、あんたにな、めっちゃ笑ってな、ゆうたりたいねん。」

6. アンネ・フランクの家

1944年4月5日付『アンネの日記』

「わたしの望みは、死んでからもなお生きつづけること！」

オランダは第1次大戦では中立を守って戦火を免れた。第2次大戦時も中立を宣言していたが、ナチス・ドイツは宣戦布告なく侵攻し、オランダは5日で降伏した。ナチス占領後ユダヤ人は東方の収容所に送られ、多くが生きては帰れなかった。ユダヤ人のホロコースト生還率：オランダ(27%)

アンネの父オットーはドイツ・フランクフルトの裕福な実業家だった。ナチスの迫害を逃れ、1934年ユダヤ人コミュニティのあるアムステルダムへ一家で移住した。アンネ4才の時だった。

オットーは食品会社を興したが、ユダヤ人の強制連行が始まると、事務所奥の隠れ家に避難することを決断。信頼できるミープら数名の社員に協力を求めた。厳しい配給統制下でアンネたち8人の食料を密かに調達するのは、並大抵のことではない。ユダヤ人を助ければ厳罰では済まないかもしれない。それでも、自分たちに累が及ぶことを承知で、ミープたちは命がけで支援を行なった。

2023年、このミープ・ヒース(1909-2010)を主人公にしたTVドラマ『正義の異邦人：ミープとアンネの日記(原題 *A Small Light*)』が日本でも放映された。〈ミープは「ナチスから『アンネの日記』を守った女性」として知られている〉

オランダ名家の娘オードリー・ヘップバーン(1929-1993)は、アンネ・フランク(1929-1945)と同年だった。オードリーはアンネとは全く違う人生を送ったが、大戦後、運命の糸に導かれるように刊行前の『アンネの日記』の原稿に出会った。出版社の女性編集者が偶然にも近所に住んでいたのだ。晩年、オードリーはユニセフの活動に尽力し、その時に『アンネの日記』の一節(1944年2月23日付)を朗読したという。オードリーの朗読を聞いた人物は「まるでアンネ・フランクその人が語っているようだった」と述懐している。〔水島治郎『隠れ家と広場』(2023年) p. 164〕

アムステルダム初日の夜、「アンネ・フランクの家」〈隠れ家が当時のまま保存〉を見学した。アンネたちはここで2年間(1942-44年)、毎日怯えながら息をひそめて暮らしていた。コロナ禍による長期のロックダウンを経験し、ロシアのウクライナ侵攻が続く時代に「アンネ・フランクの家」を訪れた多くの人々は何を思ったことだろう。

KUWVOB会 会計報告

(平成30年9月1日～令和5年8月31日)

1. 一般会計 (円)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期(30.8.31)繰越金	62,241	OB会報(やまざと)印刷費	1,332,775
OB会費納入	2,973,000	OB会報(やまざと)郵送費	352,061
60周年懇親会会費	1,039,000	現役活動支援金	300,000
預金利息	10	小屋作業関連費用	195,868
その他収入	23,500	60周年記念総会懇親会	822,966
		OB役員と現役との懇親会補助	166,540
		事務費	93,333
		支払手数料	11,087
		その他	1,350
		次期(05.9.1～)繰越金	821,771
計	4,097,751	計	4,097,751

2. 特別会計 (1)金沢市補助金 (円) (2)現役活動支援寄付金 (円)

収入の部		支出の部	
前期残	315,360	日当	80,000
入金	360,000	機材等	49,816
		繰越金	545,544
計	675,360	計	675,360

収入の部		支出の部	
前期残	0	現役支援	243,775
支援寄付	1,117,000		
預金利息	23	繰越金	873,248
計	1,117,023	計	1,117,023

3. 財産目録(令和5年8月31日現在) (円)

科 目	金 額
普通預金 (一般会計 北國銀行本店)	415,276
振替口座 (一般会計 ゆうちょ銀行高岡店)	403,751
現金 (一般会計)	2,744
普通預金 (現役活動支援寄付金 高岡信金本店)	873,248
現金 (金沢市補助金)	545,544
合 計	2,240,563

4. 一般会計 次の5年間の予算(案)(令和5年9月1日～令和10年8月31日) (円)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期(5.8.31)繰越金	821,771	OB会報(やまざと)関連	1,350,000
OB会費納入	2,600,000	現役活動支援	500,000
65周年懇親会会費	800,000	小屋作業関連	500,000
預金利息	10	65周年記念総会懇親会	1,000,000
		OB役員と現役との懇親会補助	250,000
		諸経費	250,000
		次期(10.9.1)繰越金	371,781
計	4,221,781	計	4,221,781

5. 特別会計 次の5年間の予算(案)(令和5年9月1日～令和10年8月31日)

(1)金沢市補助金 (円)		(2)現役活動支援寄付金 (円)	
収入の部		支出の部	
前期残	545,544	前期残	873,248
入金	300,000	現役支援	500,000
		支援寄付	500,000
		繰越金	873,248
計	845,544	計	1,373,248

収入の部		支出の部	
前期残	545,544	前期残	873,248
入金	300,000	現役支援	500,000
		支援寄付	500,000
		繰越金	873,248
計	845,544	計	1,373,248

OB会会費及び寄付金の納入についてお願い

会計担当 23 期 小久保光将

日頃よりKUWVOB会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では5年ごとの周年行事をはじめ、会報「やまざと」の発行、小屋作業（小屋酒場）、現役との懇親会、現役活動への支援等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くのOB・OGの皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。

おかげさまで過去5年間の一般会費収入は2,973,000円（次期会費の前払分含む）、寄付金収入は1,107,000円のご協力を頂きました。

今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 会費

年2,000円。ただし、事務負担軽減のため、5年間の一括払い（＝10,000円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

2. 現役活動支援寄付金

- ・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は1口2,000円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。
- ・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

3. 納入方法

- ・今回は全会員の方に郵便局扱いの払込取扱票を添付しております。この振込用紙をご利用ください（手数料は各自のご負担となります。）。
- ・その際、金額、住所、氏名、ご自分の「期」をご記入ください。
- ・銀行振込でもOKです。その場合は次の口座へお願いします。

北國銀行本店営業部 普通預金No.223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

9月30日（土）に創立65周年記念総会・懇親会が無事終了しました。コロナ禍の影響で通常の開催が可能か心配しながらの準備でしたが、顧問を受け持たれた先生方、OB会長のリーダーシップ、役員をはじめとした会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

今年の金大全体のOB会である第17回ホームカミングデイが10月28日に開催され、前厚生労働省健康局長の佐原康之氏の特別公演がありました。2021年から2023年にかけて感染症対策の担当局長として仕事をされていたKUWVのOB（28期）の方です。その中で高齢者が増大する日本においては予防接種等の健康対策を行うことや身体を健全に使える健康寿命を延ばし、いつまでも働けることが大切になってくると説明されていました。皆様におかれましても健康管理に気を使われ、5年後の創立70周年総会・懇親会で再会できますことを願っています。

森のうた

一、キミは覚えているかい？

雨上がりの森のにおい

氷りだす月

オレンジに染まる谷 くだったこと

ボクは ほしい

雲のように

変わりつづけるころ

二、ボクは持っているかな？

峰の奥の空の深さ

鳥の孤独

あの山でキミがつぶやいた言葉

ボクは ほしい

オオシラビソの

立ちつくす激しさを

三、キミは知っているかい？

にこ毛そよぐブナの森を

山靴の夢

倉谷のタムシバの花の白さ

ボクはほしい

カタクリの

日なたに躍る気持ち